
文 I に、受かる。

PART 1 教科別勉強法 & 問題集紹介

✓ 英語	 1
✓ 数学	 16
✓ 国語	 25
✓ 世界史	 31
✓ 地理	 39
✓ 問題集一覧	 44

PART 2 合格体験記 実況中継 ver.

..... 47

PART 3 受験にまつわるエトセトラ

..... 59

PART 4 勉強って、何？

..... 66

※注意

ここに記されている文章は全て 2004 年 3 月当時の情報に基づいており、特に試験の出題形式・参考書等については、現在では大きく異なっている可能性があります。必ず自分で確認して下さい。

は じ め に

2004 年 3 月に東京大学文科 I 類に現役合格した、都内某進学校出身の者です。

合格したら短い合格体験記を書いてみよう、と受かる前から思っていたのですが、結果としてこのような小冊子になってしまいました。PART 1 では教科別の勉強法・僕が通った塾・使った参考書・直前期の勉強法などを述べています。PART 2 では、受験生の最も知りたいところだと思われるセンター試験・二次試験当日の様子を中心に、様々な情報を含めながら実況中継的に述べてみました。試験当日の、普段とは異なる心理状況の下では、このような体験記を事前に読んでおくことが良い準備になると思います。PART 3 では、僕が受験勉強をしてきた上で会得した、受験生の指針となりうる事柄を記しました。PART 4 は、受験勉強をしながら僕なりに考えたことをまとめてみました。

受験は人生の糧となります。そして本当に目指すものは合格ではなく、その先にあるはずです。

2004 年 3 月 31 日

N.I.

※ タイトルは「文 I に受かる」となっていますが、東大理系志望の方にも、他大志望の方にも、参考になる情報が入っていると思います。

6 years later...

これを書いてから数年後、私は東京大学法学部在学中に現行司法試験に合格しました。少し時間ができたので、誰に宛てて書いたわけでもないこの小冊子を瓶に詰め、ネットの海に放り投げてみようと思い立った次第です。

ここ6年の間に、大学受験界では、センター試験へのリスニング導入をはじめとする様々な変化がありました。もちろん東大入試もその例外ではなく、2008年度からは後期日程における選抜が理Ⅲ以外の科類で共通になるなど、その形式から内容に至るまで大きな変容を遂げています。

そのような時代において、2004年3月当時の情報がどの程度有用なのかは甚だ疑わしいかも知れません。各種の受験指導や参考書・問題集は日進月歩でそれらの変化をフォローしているのに対し、ここに記された情報は今や時代遅れのものであり、無用であるどころか有害である恐れすらあります。

しかし、受験に合格する上で真に必要な情報は、それほど変わるものではありません。形式が変わったところで、求められている実質は同じです。実質を伴わない小手先だけのテクニックでは受験形式の変化に太刀打ちできませんが、合格に足るべき実力をつけていれば何も恐れることはないのです。

この冊子の中から「本質」を学び「実力」を身につける方法を発見して頂きたいと思います。与えられた情報を鵜呑みにするだけでは人間は成長しないものです。

これを読んで下さった誰かが、数年後に東大合格を果たした際、この小冊子の改訂版を執筆して下さることを願いつつ。

2010年8月31日

N.I.

PART 1：教科別勉強法＆問題集紹介

英語

(問題集名の後の★の数はオススメ度：★ ～★★★★★)

まずはセンターでも二次試験でも必要になる英語の「基礎」から。

〔単語〕

一般にいわれる英語力、英語の得意不得意というのは、結局のところ単語力（と熟語力）によって決まることがほとんど。単語を多く覚えているにこしたことはないし、単語力は直前期まで伸ばし続けることができる。

- ・「速読英単語 入門編／必修編／上級編」増進会出版社 各 900 円 ★★★

定番の単語集。ただ上級編はやらなくていい。

- ・「速読英熟語」 増進会出版社 900 円 ★★★

これも定番。

- ・「DUO 3.0」ICP 1200 円（CD別売 1200 円）★★★★

高1の時にCDと一緒に買って一通りやり、2度ほど回して例文を丸暗記した。が、半年後に見るとほとんど忘れていることが判明し、それ以降本棚に封印。最初の方の例文 “We must respect the will of the individual.” あたりは今でも空で言える。高校3年生の時に学校のリーディングの授業でやらされてたと思うが、僕はリーディングをとってなかったのだからわからない。

- ・「Word Book 1600」W I S E（非売品）★★★★★

ワイズでもらった。行けばもらえる。英英辞典に基づいた、一般に知られている単語の意味とは異なる解釈が多くされている。コラムも多い。しかし誤植が多いのが難点か。巻末には Writing のキーとなる「冠詞」についての詳細な解説＆問題が載っている。以下引用「～東大の英語120点中30点を占める英文ライティングで（中略）…冠詞等の減点が一個につき-1～-2点…（中略）…冠詞でいくつか間違えれば、せっかく努力して英語表現を身につけたとしても、何も勉強しなかった人と同じ0点になってしまうのです。従って、冠詞を確実に押さえることは、ライティングでプラス点を取るための不可欠の前提条件なのです。」

さらにその後にはレストラン紹介なんかも載ってたりする unique な単語集。

- ・「鉄緑会 入試英単語 完成編」鉄緑会英語科（非売品）★

単語とその意味がただ羅列されているだけ。役には立たない。

・「パタスタ 英単語 1200」「〃 英熟語 600」旺文社 各 1200 円 ★★

中三の時に新宿の紀伊国屋で宣伝につられて買ったもの。これのウリは、バインダー形式になっているためにページがバラバラに取り外すことができ、必要なだけ持ち運べるし、ほかの教科と組み合わせてオリジナルな学習書にできること、らしい。(パタスタとは Patapata Studying System の略だとか) しかし、これを使っている人を見たことがない。実は僕も買ったきり使ってない。興味のある方はどうぞ。

・ Do it yourself. ★★★★★

世の中には単語集と名の付くものがたくさんあるが、実は、自分で単語帳を作る方が手っ取り早く単語を覚えられたりするのだ。というわけで僕なりの単語暗記法を紹介しよう。

- ① 長文問題を解きながら、未知の単語をチェック
- ② 辞書でその単語を調べる
- ③ *印の有無を確認（見出し語の頭についてる、頻度を示す印のこと）
- ④ *がなければ放置、あれば自分のノートの今日のページに書く
- ⑤ 一日 10 分程度そのノートを見返す

ノートは普通の大学ノートで可。自分の知らない単語だけを効率的に覚えられるという点で、これは実際かなりの効果があったと思う。おすすめ。

※ どの単語集を使う場合でも、1 日最低 10 分は見ろ。絶対。

〔文法〕

文法は東大二次試験では軽視（？）されているものの、センターでは結構な配点なために、無視しないわけにはいかないだろう。

・「英文法・語法のトレーニング2（演習編）」増進会出版社 971 円 ★★★★★

基本的にはセンター対策。一気にやって、2・3 回まわして、センター直前期にもう 2 度くらい、間違ったやつだけやればいい。少しずつやっていってもだれただけだし、やるときには一日 100～200 題を一気にこなしていくのがいいと思う。本当は「1（戦略編）」があるらしいが、2 の演習編だけで十分。やたら細かいことをごちゃごちゃ言ってるし。

・「英語頻出問題総演習」桐原書店 1260 円（通称「桐原の英頻」）★★

通称「桐原の英頻」。「駿台の英頻」と並ぶ有名な文法問題集。しかしイマイチやる気の乗ってこない作りになっている。今見たら P 30 以降真っ白で、解いた形跡がない。

・「新・英文法頻出問題演習（PART 1・2）」駿台文庫 860 円・780 円 ★★★★★

桐原の英頻よりは熱心にやった記憶がある。PART 1 は文法編、2 は熟語編。

・「基礎英文法問題精講」旺文社 880 円 ★★★★★

・「英文法標準問題精講」旺文社 820 円 ★★★★★

どちらも普通の文法問題集。

※ 文法は、単語ほど一生懸命にやる必要はなく、どれか一冊お気に入りの問題集を見つけてそれをしっかり仕上げるのがよいだろう。

〔センター試験〕

センターの英語は大問で 6 題、内容は以下のようにになっている。(200 点、80 分)

1. 発音・アクセント
2. A.文法 (適語補充)
B.口語文補充
C.文法 (単語並べ替え)
3. A.接続詞補充
B.センテンス並べ替え
C.センテンス補充
4. 読解問題 (統計読み取り)
5. 読解問題 (会話文)
6. 読解問題 (物語文)

東大受験生なら、とりあえず目標は満点だろう。あくまで目標だけだね。実際には 190 前後、悪くても 180 は切らないあたりに落ち着くはず。4～6 の読解問題は、一問あたりの配点が 6～7 点とデカいため絶対に落とせない。実際にセンター模試を受けてみるとわかるけど、時間がやたら余るので、余った時間で 4～6 の見直しを丁寧にやること (個人的には、6 のラストの問題 (本文と内容が一致するものを 3 個選べ、ってやつ) で必ず 1 個間違っ癖が抜けなかった)。ちなみにセンター模試・センターパックは、本番よりも多少難しめにできているため、そういうので成績が低かったからと言って悲観することはまったくない。

満点を目指すとなると、足を引っ張るのはやはり「1. 発音・アクセント」だろう。ということで発音・アクセント対策には、その名も

・**「発音・アクセント総仕上げ」駿台文庫 660 円 ★★★★★**

をやるべし。全部やる必要はない。「発音頻出語」と「日本語化した単語」のとこだけ見て発音しておけば十分だと思う。「俺カタカナ発音でしか覚えてねーよっ！indict はインディクトって読むんじゃないの？」という人にはオススメ。

センター向け英文法問題集はいろいろあるけど、僕は上に書いた問題集のほかに、

・**「マーク式基礎問題集 4 英語[文法・語法-応用] 河合出版 667 円 ★★★**

を 1 冊仕上げました。まあどれでもいいと思うよ。

センターに関してはこんなとこでしょう。

※ 6 のラストの問題 (解答番号 48～50) は問題用紙の最後のページにある場合があるので、焦るとページをめくり忘れて見落とす。

〔東大二次試験〕

英語は二日目の午後に行われる。試験時間は午後 2 時～午後 4 時の 120 分、リスニングの放送は試験開始後 45 分、つまり午後 2 時 45 分から始まり、およそ 30 分間続く。問題形式は大問で 5 題、内容と配点は以下のようにになっている。(04 年の場合；配点は推測)

1. A.大意要約	8 点
B.パラグラフ整序	8 点 (2 点×4)
2. 英作文	24 点
3. リスニング	30 点
4. A.文法問題 (単語並べ替え)	10 点 (2 点×5)
B.英文和訳	15 点
5. 読解問題	25 点
	計 120 点

英語の問題形式は毎年少しずつマイナーチェンジしている。今年は、去年まで 6 題前後だった 1 B のパラグラフ整序が 4 題になり (しかも易化した)、文法問題は単語を並べ替えた上に不足している単語を補えというひねりすぎた出題だった。つまりこれは、事前に時間配分を細かく計算していても、試験のその場で問題形式の変化を読み取り、かかる時間を予測して flexible に対応していかなきゃダメ、ということだ。実際、英作文が苦手な僕は「1 A→4 B→5 をリスニング前に終わらせ、リスニング後に 4 A・2 をこなし、1 B をラスト 15 分で仕上げる」作戦で試験に臨んだが、1 A を終わらせた後、ぱっと見た感じ 1 B の問題数が減っている上に文章もそう難しくはなさそうだったため作戦変更、4 B をクリアした後 1 B を仕上げ、リスニング前に 4 A まで解ききることができた。今年は 5 が例年よりも重かったために結果的には 5 分も余らなかったが。

ではそれぞれの問題について。

〔1 A : 大意要約〕

1 A だけに試験開始前から透けて見える、とか言われてるが、実際はそんなことはなく、うっすらと草稿用のマス目が見える程度。この指定字数によって時間配分は多少変わるが、おそらく今後も 100 字以内の要約というスタイルだろう。10 分以内には終わらせたいところ。10 分超えたら黄信号。15 分超えたら赤信号。要約の仕方がいまいちわからない、どうすればいいの？という人には「[英文大意要約のストラテジー](#)」(河合出版) がいいらしい。が、僕は持っていないので何ともコメントできません。

重要なことは、「この筆者、要は何が言いたいんだ？」という質問に対する解答を用意すればいい (= 主題の把握)、ということ。だいたい「**A は B である**」形式に当てはまるはず。これを 30 字～40 字程度で書き起こしたら、後は指定字数にあわせて、その根拠 (A は C であるから B である)・対立 (A は D とは異なり B である) などを適宜盛り込めば OK。よく言われるのが、「20 字 1 ポイントの法則」で、これは指定字数 ÷ 20 字が盛り込むべき

ポイントの数である、というもの。指針にはなると思うけど、過信は禁物。主題を捉え間違わなければそれなりの点数がもらえます。あと、ひらがなは字数の無駄。なるべく漢字（熟語）を使おう。

例：「思想がはっきりしていて、それを他の人に伝達することに成功するためには、使用する語彙の意味を定めるための方法が無くてはならない」(62 字)

→「明晰な思考と意思伝達には語彙の確定が必要だ」(21 字)

まあここまでコンパクトにまとめるのはちと厳しいか。

・「英語要旨大意問題演習」駿台文庫 951 円 ★★★★★

大意要約の仕上げといえこれしかない。後述する「英文和訳演習」と並ぶ、今は亡き伊藤和夫氏の名著。採点基準付き。僕は直前期に毎朝 1 題、10 分の時間制限で解いていた。ちなみに上の例文はこの本から。

〔1 B : パラグラフ整序〕

英作文とともに最も変化の激しい 1 B。しかし求められているのは同じで、長文の内容把握である。この問題のいやなところは、ご丁寧にダミーの選択肢が 1 つあること。「7 つの選択肢の中から 6 つ選ぶこと」とか言って。03 年までは問題数が多く、1 B だけで 12~14 点あった。04 年は 4 個だったが、2 点×4 の 8 点ではなく、もしかすると 3 点×4 の 12 点だったかもしれない。ということはここだけで 10 点近く他の受験生に差をつけることができる(=もしくは 10 点近く他の受験生に差をつけられる恐れのある)可能性のあるおいしい(=厳しい)問題なわけだ。しかもこの問題、こうすれば確実に解ける、という解法が無いに等しい。解説を読んでも、読んだ方は「そりゃあ答え知ってればこういうこと書けるけど」とか、「こんなんこじつけだし」等の「始めに答えありき」という思いを捨て去ることができない。さあどうする？実はこれ、パラグラフリーディングなんて言う大仰な名前のものを学ばなくても十分対処できる。

1. Discourse Marker に注目。

Discourse marker というのは、話題の推移を示す「談話標識」のことで、要は接続詞みたいなもの。By the way ; while ; On the contrary ; However ; well ; For example ; e.g. (exempli gratia = For example) ; i.e. (id est = that is =すなわち) ; nevertheless ; meanwhile ; although などなど。これで話の展開を追うってこと。

2. 冠詞・指示語に注目。

とりあえず the にはなにがなんでもチェック入れとこう。「the ついてんのかよ！」くらいの勢いで。「既出の単語には the がつく、初出の単語には一部の例外を除いて the はつかない」の鉄則。あと指示語も要チェック！！気づきにくいのが it かな。形式主語と間違えやすい。とにかく the のついた名詞や指示語を見つけたらその指し示す言葉に矢印でも何でも引いておこう。

3. 主題は？？

1 A と同じく、この問題のポイントは「文章の主題を見抜く」ことにある。「主

題は??」と常に問いかけながら読むべし。つまり、「AはBである」の「A」は文章をぱっと見たら誰でもわかるけど、「B」の方は文章を最後の方まで読まないといけない、つまり「B」を見抜けた者の勝ちだってことです。

4. 具体的方法

おそらく上の 3 つの手法については塾で聞きかじったことのある人もかなりいるんじゃないかと思うけど、じゃあ実際にどうやって解答出していくんだ、ということになると実は教わってなかったりする。そこで！僕が実地に導き出した解法をお披露目しよう。(この方法で、高3の11月の河合・駿台東大模試、学校の校内模試におけるパラグラフ整序は全問正解だった。しかし1月の東進直前模試では6問中正解は2問だけだったのでこの解法にも落とし穴があるらしい。ちなみに本番は全問正解) それでは順を追って。

Step.1 第一段落を読む。(「A」の把握)

Step.2 多くの場合第二段落がブランクになっている。ここで選択肢の内容を順に全部読み、各選択肢の要旨を横に走り書き程度に書いておく。ここではまだ全容がつかめないはず。

Step.3 空欄番号と選択肢を表に書く。

Step.4 ブランクの次の段落を読み、選択肢と照らし合わせ、「これは入りそうにないな」と思える選択肢の欄に×をつける。
Discourse marker に注目。

Step.5 4.の繰り返しで表を埋める。

Step.6 候補が少ないブランクから詰めていく。指示語・the に注目。

Step.7 入れる候補が決定できたらその欄に○を入れ、同列・同行の他の欄にすべて×をつける。

Step.8あとはパズルの要領で自動的に候補が絞られていくはず。

Step.9 最後に主題を確認して整合性を確かめる。

とただただ書いてみましたが、要するに「**入る候補**」を探すんじゃなくて「**入りそうにない候補**」を探す、といういわば搦め手で攻める、ということでした。ただこれも万能というわけではないので自己責任でお使いください。あと気を抜くとダミーの選択肢の存在を忘れてしまうこともあるので注意。基本は文脈判断。

「過去問だけじゃ足りないよ」って人は、自分で Time とか Newsweek とか Economist 等英語の雑誌を買ってきて適当に記事をパラグラフごとに切ってそれを並べ替えてみたりするのもいいんじゃないかな。そこまでやる必要があるかは分からないけど。

〔2：英作文〕

この英作文は大きく A と B に分かれていて、一方がグラフの説明・会話の要約・ことわざの説明などの「状況説明型」、もう一方がクローニングについて自分の意見を述べたりする「意見陳述型」である。後者では、04 年は「もし自宅から電車で片道 2 時間の距離の大学に通うことになったら自宅から通うか、一人暮らしするか」について 50 語程度述べさせた。総語数は年によって大きく変動する。

僕は英作文が苦手なので偉そうなことは言えません。が一応人から聞いたコツを載せときます。

- ・状況説明型 単語のストックを増やせ。コツでも何でもないっすね。と同時に易しい文を易しい単語で書けるように普段から練習しておくこと。
- ・意見陳述型 ①譲歩→自説の流れで必ず書く
 ②ちょっとした熟語で小技を効かせる

ということだが・・・①はまあいいとして、②で、小技を使ってみたが実はその用法をミスっている、ことは十分あり得る。生兵法は怪我の元。そんなことするくらいだったら、**冠詞・時制・三単現の s を厳しくチェック**した方が良い。技を効かせたからと言って点数が上がるわけではない。参考までによく使う定型表現を載せておくので、自分の気に入った表現だけピックアップしておけば十分だろう。

<定型表現>

■導入部

1.自分の意見を述べるときの書き出し

- I think that ... (…だと思う)
- I believe that ... (…だと思う)
- In my opinion, ... (私の意見では…)
- My view is that ... (私の意見は…だ)

2.賛成

- I agree with 人 that ...
- I agree with the opinion that ... (…という意見に賛成だ)
- I support the view that ... (…という見解を支持する)
- I am in favor of ... (…に賛成だ)
- It is right to do ... (…するのは正しい)
- It would be right to do ... (…するとしたら、それは正しいだろう)
- It is a good idea to do ... (…するのはよい考えだ)

3.反対

- I disagree with the opinion that ... (…という意見に反対だ)
- I am against ... (…に反対だ)
- I am opposed to ... (…に反対だ)
- It is wrong to do ... (…するのは間違っている)

★It would be wrong to conclude at once that ... just because ~
(～だからといって、…と即断しては間違いでしょう)
People should not do ... (人々は…すべきでない)

■本論

1.理由列挙

Firstly...secondly...thirdly...finally...

First, ... Second, ... Last, ...

First of all, ...

To begin with, ...

2.理由の導入

This is because ... (それは…だからだ)

The reason is that ... × Because I love you. ←文頭はダメ

This is partly because ... ,but mainly because ...

One advantage of ... is that ~ (…の利点は～ということだ)

But there are disadvantages too. (しかし、これにも欠点はある)

3.情報の付加

besides (おまけに) ; moreover (さらに) ; furthermore (おまけに、その上)

4.その他

in addition (さらに) similarly (同じように)

Even more important, ... (さらに重要なのが、…)

And we shouldn't forget that ... (そして忘れてはならないのが)

5.譲歩

★just because ... , it does not necessarily follow that ~
(…だからといって、～ということにはならない)

6.対比

all the same (それでも) yet (それでも、しかし)

on the other hand (他方では) however (しかし)

In contrast (反対に)

On the one hand ~, but on the other hand ... (一方では～、しかし他方では…)

7.一般化

on the whole (全体として) in general (一般に)

as a rule (一般に) in most cases (たいていの場合)

broadly speaking (おおざっぱに言えば)

to some extent (ある程度)

■結論

In conclusion, ... 「結論としては、…である」

I conclude that ... 「私の結論は…ということである」

Therefore, I believe ... 「従って私は、…だと思う」

To sum up, ... 「要するに…」

- ・「基礎和英問題精講ライティング」旺文社 880 円 ★★★

可もなく不可もなく。

- ・「和英標準問題精講」旺文社 820 円 ★★★

↑の上位版。

- ・「和文英訳の修業」文建書房 1500 円 ★★

この本を一冊こなしたら君は英作文マスターだ。というか買う必要はない。

- ・「大学入試英作文辞典」SEG出版 1500 円 ★★

その名の通り「辞典」。訳しにくい（和英辞典には載っていない）日本語の英訳が一覧にしてある。なるほどこう訳すのかあー・・・しかし「受験」用かと言われると難ですな。受験が終わっても役立つってことです。

結局ライティングは、塾か学校の信頼できる先生に添削してもらうのが一番かも。

〔3：リスニング〕

基本的にそれほど難しくなく、解答方式も記号か単語を書くだけなので、得点の稼ぎどころといえる。毎年若干の形式変更がある。模試の成績が悪くない人（＝30 点中 25 点程度はとれる人）は、それほど焦ってリスニング教材を買う必要はない。実は毎日英語を聴く必要もないかもしれない。とはいえ聴いて損をすることはないので、なるべくラジオなり教材なりを聴くようにした方がいいかなあ。歯切れが悪いのは、実のところ僕もあまり熱心に聴いてなかったためです。高3の秋頃までは熱心に聞いていたが、文化祭があったりして、秋が深まりを見せる頃にはほとんどBGMと化していた。さすがに直前期は毎朝AFN (810Mhz) を7時過ぎから30分聴いていたが。

（Paul Harvey の The Rest of the Story は結局よくわからなかった）

以下の3冊はどれも単語集としての役割も大きい。

- ・「リングメタリカ」増進会出版社 1100 円 （CD 別売 2000 円）★★★

ワイズで薦められたもの。CDは買う必要がないが、テキストの中身は理科英語が多くてなかなか良さげ。つーかCD高いって。

- ・「英単語・熟語ダイアログ 1200」旺文社 1300 円 ★★★★★

SEGのDynamic English で使ったもの。CDが2枚ついてこのお値段はお買い得。中身はすべて対話文（ダイアログ）です。東大のリスニングには必ず対話が含まれる、という観点から見ると、買っておいて損はない。

- ・「速読速聴英単語 Core1800」増進会出版社 1900 円 ★★★★★

高2の時に学校でやらされた。結構いいんじゃないかと思う。しかしこれの上位版「速読速聴英単語 Advanced1000」には手を出さない方がよい。そこまでの

力は要求されていない。

リスニングの成績が悪いという人へ。日々聴くこと。それしか対策はない。しかも、今日から始めろ。AFN (AM810Mhz、<http://www.afntokyo.com/>) もしくは夜 11 時からの NHK 英語ニュースだ。一日たった 20 分で 30 点中 26 点とれるようになる科目は他にない。ダラダラ聴くのを防ぐために、ニュースの時は録音してディクテーションしたほうがよい。ラジオ反対派は「いや〜やっぱりスクリプトがなきゃだめだよ〜」などと言うが、俺に言わせればスクリプトなんぞに頼ってるからいつまでたってもリスニングの成績があがらんのだ。

さて実際の試験の話。リスニングの問題は**放送 5 分前には必ず読み始める**こと。事実、04 年のリスニングは(B)の問題文が長く、3 分間で読もうとしていた人は全部読み切れずに焦っていた。つまり試験開始 40 分後には今やっている作業を中断して問題文に目を通し始めるわけだが、このとき途中で中断しても影響のない問題を解いているのが望ましい。4 A 文法とかね。さて先読みの際だが、放送時に英語を聴くと同時に選択肢の英語を読む、という作業ができるほど英語に慣れてはいないと思うので、選択肢の要点（単語レベルで十分）を日本語でメモっておこう。実はこの一手間によって、「聴く」ことだけに集中できるようになるため、随分楽になる。5 分間あれば充分。丁寧にやると時間が無くなるので注意。

〔4 A : 文法問題〕

東大二次試験の中ではもっとも受験っぽい問題かも知れない。例年誤文訂正だったが、最近は並べ替え問題になっている。2 点×5 問で解答は記号。対策は、おそらくセンターの準備で OK だろう。実力さえあればできるが、できないから実力がないというわけでもない。試験中凹まないように。ちなみに駿台模試ではなぜか配点が 1 点×5 になっていたため、駿台東大実戦模試ではいつも捨てていた（たぶん今年からは 2 点×5 になる、と思う）。ここで言いたいことは一つだけ。5 分以上かけるな。5 問全部解かなくていい、とにかく 5 分たったら強制終了。残りは試験時間の最後に余った時間で解け。まじで。こういう問題は一度はまるとなかなか抜け出せなくなるからだ。模試でここに 10 分以上費やしたあげく英作文を書く時間が足りなくなってしかも返ってきたら 5 問中 2 問しか合っていなかったという悲劇を体験した者が語るのだから信じなさい。

問題集に関してはすでに述べているので省略。

〔4 B : 英文和訳〕

近年は短文化傾向が強く、代わりに難化しているのかと思ったがそうではないらしい。それほど配点が高いわけではないのでさくっと終わらせよう。対策は、過去問をたくさん解いて、英文をたくさん読むこと。やはり倒置などの特殊な文法は慣れるのが一番である。実際に解くときは、構文を確実に把握し、文の意味を限界まで考えること。決して翻訳をしようなどと意気込んではならない。基本は愚直な直訳。あと、前後の文脈を穴が開

くほど読み込むのも一つの方法ではある。まあこの種のことは専門の先生にお任せして、
・「英文和訳演習（入門編・基礎編・中級編・上級編）」駿台文庫

中級編 602 円・上級編 757 円 ★★★★★

をこなすのがいいだろう。高 3 から始めるなら中級編からでいいと思う。細かい採点基準がついてるので、時間を計って解いてからきちんと自己採点すること。上級編になるとさすがに難しさが実感できる。直前期に、致命的な間違い（構文ミスとか）をしたものだけを復習するとよい。駿台の採点法では、構文をとらえ間違えると「K」の印が付いて該当箇所が 0 点になる。構文をミスる、というのは、要するに主語と述語を把握できていない、ということだからこれだけは防がなくてはならない。本番では、構文を取り違えると、該当箇所だけでなくその下線部（小問）が丸ごと 0 点になる、という噂を聞いたこともある。逆に言えば主語と述語を正しく捉えてさえいれば大幅な減点は防げる、ってわけです。和訳の問題集で使ったのはこれだけ、というかあとは塾でいっぱい解いたからなあ。

参考までに、東大の出題は「受験生が知っている、またはそれに近い経験を持っているだろう内容」を題材にしていることが多い。訳してみて「一体何のことだろう」と思えるならば誤訳をしている可能性が高い。口語文では描出話法にも注意。例えば 99 年の「If she did, he would smile ...」は、「もし彼女がそうしたなら、彼は微笑んで…」ではなく「もし彼女がそうしたなら、僕は微笑んで…」と訳した方がよい、ということ。

・「基礎英文問題精講」旺文社 880 円 ★★★★★

問題数が多いので、高 2 以下なら「英文和訳演習」に入る前に練習用としてざっとやるのもいいかもしれない。

〔5：口語文読解〕

口語文なだけに、話の展開を把握しさえすればこっちのもの。そのためには「口語文頻出単語」を知っていることが不可欠、ということでいくつか紹介しよう。

- | | | | |
|----------------------|------------|-----------------------|---------------|
| 1.No kidding! | 2.Come on! | 3.Who knows? | 4.Where am I? |
| 5.You make no sense. | 6.Too bad. | 7.Now you're talking! | 8.You bet! |
| 9.What's up? | 10.No way. | | |

（答え）

- | | | | |
|--------------------|-----------------|------------|----------|
| 1.冗談だろ／まさか！ | 2.おいおい、ちょっと待てよ。 | 3.さあどうだか、 | 4.ここはどこ？ |
| 5.お前の言ってることは意味不明だ。 | 6.残念ですが。 | 7.そうこなくちゃ！ | 8.もちろん！ |
| 9.元気？／どうしたの？ | 10.とんでもない／絶対イヤだ | | |

これら 10 コは、結構力を発揮します。覚えよう。

さて具体的なテクニックだが、まず問題文にざっと目を通そう。たぶん大きな変更はないと思うが、基本は選択肢・空所補充が何問かと、短い和訳が 1・2 問というところだ。それから文章を読んでいけばよい。それほど焦る必要はないが、長文に 20 分以上かけるのはよろしくない。

時間が足らんよ～って人は、小説（口語文）を原書で読んでみよう。初めから何百ペー

ジもあるものを読むのはさすがにきついで、薄いペーパーバックから始めたほうが良い。代々木ライブラリー（代々木駅近く）にたくさん置いてある。GTOの英語版などもあった（擬音語の多さを再確認）。正直な話、英語は読んだ量が成績に比例し、解く時間に反比例する。だいたい読めるような自信がついてきたら、シドニイ・シェルダン／スティーブン・キングなど人気作家の本にチャレンジしていくといいかも。原書を読むコツは、「極力辞書を引かない」こと。そんなんいちいち調べてたら1年たっても読み切れません。そして「早く読む」こと。1ページ5分以上かけていては読んでいておもしろくないし、話の筋もつかみにくい。

〔その他 ー持っていたけど使わなかった問題集ー〕

* 「英文解釈のトレーニング」 「 PLUS」 増進会出版社 各 1166 円

僕は使っていないので他のところから引用。「決して全訳をノートに書いてはいけないうし、要約をするべきかどうか微妙。とにかく難しいのでむしろ英語恐怖症になってしまうかも知れない。読むだけならOKだが。」今ちらっと目を通した限りでは、塾に通っていない人にはいいかもしれない。

* 「これが英作文ー入試英作文は「英借文」でしかない！ー」 河合出版 953 円

可もなく不可もなく、でしょうか。

* 「東大の英語 23 力年」 教学社 2300 円

〔塾〕

・ 平岡塾（中1 4月～5月） ★★ 最寄駅：渋谷

1カ月しか通ってないじゃん。と言われそうだが、1ヶ月で十分だった。宿題がやたら多く、宿題の解説だけで授業時間がほとんど消費される。問題集を買わされて解答冊子だけ徴収されるという生徒を信頼しない態度、授業中に乱入してきて「vitamin ってなんて読むかわかるアナタたち？ ヴァイタミンよ、ヴァ」と生徒に語りかける老婆が嫌になって速攻やめる。この人は脱税で捕まったことが度々あるらしい。成績が特に優秀な生徒はこのおばあさんと二人きりのディナーに誘われフランス料理をご馳走になれるという噂を聞いたがその真偽は定かではない。あと、これは相当有名だと思うのだが、実はこの塾「サロン形式」なる授業形態で、教室には椅子が無く生徒は皆じゅうたんの上に座らされるため、授業とは関係のないものを期待して平岡に通う男子生徒が続出している。やめて損した。

・ K会（中1 5月～3月） ★★★ 最寄駅：新宿

K会の宣伝文句にあるように、確かに少人数で interactive な授業だった。通っていた当時はあまり感じなかったが、今考えてみると単語レベルから言ってかなり難しめのテキストを使っていた。毎週辞書と首っ引きで予習していたが、

実はこれで英文を読む力がついたのかもしれない。しかしその面倒くささゆえか、予習をさぼる癖がついてしまい、中2になる時にやめた。

・Z会 通信添削（中2 4月～3月） ★★★

ここでは中3と高1の2つのコースをダブル受講。筆名が載ったことは確か両方合わせて1度しかないが、成績は悪くなかった。中2も終わりのほうになると「白い悪魔」がたまってくる。

・SEG（中3春期～高2の12月、1学年飛び級） ★★★★★ 最寄駅：新宿

この頃数学をSEGで1学年飛び級受講しており、Zでの経験から言って、英語も同学年の授業を受けるより是一個上の授業を受けた方がいいだろう、と決める。3年間ずっと Dynamic English（山方高志）を受講し続けた。初めて中3の春期講習でとった授業がそれで、授業スタイルが気に入ってそのまま最後までとり続けた。英単語を接頭辞・語幹・接尾辞に分ける解説や、生徒を当てて答えさせる授業形態（初めはこれが苦手だった）、さらりとこなすギャグがツボ。だがなんといっても僕のパラグラフリーディングはここで鍛えられた。説明は長くなるので省略。

・WISE（高2冬期～高3夏期） ★★★★★ 最寄駅：渋谷

さてSEGの高3の授業は12月で終わってしまう、高2の俺はどーすんだ。という所で目にとまったのがワイズのパンフ。読んでみるとなにげにいいこと言ってる。じゃあちょっとのぞいて見るか、と思い4日間の冬期講習に行ってみたらいきなり1時半から4時半・5時から8時半まで怒濤の英語7時間責めに遭い、SEGの授業に少し物足りなさを感じていた僕はそれに惹かれて入会。しかし実はこの塾の魅力はそこではなく、ここの唯一の教師、藤本にある。まあパンフに書いてあるとおりの人です。でも生徒のレベルがちょっと…荒れますな、ということで、藤本氏の言いたいことをだいたい理解したと感じ8月に退会。この塾に行ったおかげで様々なことに気づくことが出来たので感謝。鉄緑会と同時に通っていたことで、天秤のバランスがとれていたような感がある。この塾に行くなら中1から継続的に通うべきだろう。費用は少し高めだが、それだけの価値は十分にある。

・鉄緑会（高2 1月～高3Last） ★★ 最寄駅：新宿／代々木

高2より前に鉄緑に入ってはいけませんが、高3で鉄緑の英語をとるとしても、Aクラスにいないければ意味がない。

・東進 東大特進コース（高3夏期・冬期講習のみ） ★★★

最寄駅：新宿／四ッ谷／お茶の水

宮崎尊というひげのおじさんが教える講座。特待生なら取っても良いが金を払ってまで取るものではない。

〔直前期の勉強〕

過去問を解く。過去問はだいたい塾で解いちゃったという人は模試問題集を解く。SEGでも鉄緑でもワイズでも東進の講習でも東大の過去問を解かされてきた僕は（プラスチック好きの犬が出てくる話やハワイにおけるサーフィンの歴史の話などは確か4回解いた記憶がある）過去問はもういいやと思い、模試問題集を購入。

駿台の青本は5回分、代ゼミの白本は6回分、河合の紫本は4回分載っている。内容量以外の違いは特にない。正式名称は駿台が「東京大学への英語」（1952 円）、代ゼミが「東大入試ブレ問題集 英語」（1880 円）、河合が「入試攻略問題集 東京大学 英語」（1952 円）である。全部買うと15回分。2月の上旬から1日1回のペースで解いていこうとしたがさすがに無理。結局1日おきに解くことにした。制限時間120分で、タイマーをセットし本番同様45分後からリスニング問題を流す。模試問題集を解かない日は、同じ時間で「英文和訳演習」の間違った問題を解きなおし（30分）、鉄緑でやった演習を見直し（30分）、「基礎和英問題精講ライティング」（30分）をやっていた。まああまり予定通りには進まなかったが・・・そのほか、毎朝起きたらすぐ、15分間で「Word Book 1600」（WISE）の1セクションの半分をやり（覚えていない単語をマーカーでチェックしていく）、次に答え合わせの時間も含め15分間で「英語要旨大意問題演習」を1問解き、朝飯の後はAFNを7時半まで聴く。その後は昼食後15分で朝と同様「Word Book 1600」を半セクションやる。模試問題集を解くのはこの後（実際の試験時間2時～4時にあわせていた；2時40分にリスニング問題の先読みを始める癖を体に覚え込ませるため。効果の程は不明）。英語の勉強はこれくらい。

数 学

とりあえずセンターから。

〔センター試験〕

センターの数学の内容は以下のようになっている。(どちらも100点・60分)

- ・数ⅠA 1・2が必答、3～5の中から1問選択。
 - 3. 数列
 - 4. 平面図形
 - 5. コンピュータ(BASIC)
- ・数ⅡB 1・2が必答、3～6の中から2問選択。
 - 3. ベクトル
 - 4. 複素数
 - 5. 確率
 - 6. コンピュータ(BASIC)

東大受験生なら、やはり目標は満点だろう。170を切ると黄信号。ちなみに英語と同様、センター模試・センターパックは、本番よりも多少難しめにできているため、そういうので成績が低かったからと言って悲観することはまったくない。僕は11月の河合のマーク模試では数ⅡBが56点で焦った。センター対策としては

・「入試の軌跡 センター試験」東京出版 1000円 ★★★★★

をやるべし。本試・追試が6年分載っている。初めの数ページに書いてある分析を読めばセンター数学の特徴が理解できるだろう。

センター数学は誘導があるために難易度で言えば二次試験よりかなり易しいが、逆に誘導の方向性を読み取れないと時間をやたら食ってしまうので注意。04年の数ⅡBの難化が有名になったので、05年はおそらく易化するだろう。「必要条件・十分条件」絡みの出題があるので対策を講じておこう。選択問題では解く分野を事前に決めていくべきだが、問題によってはその場でflexibleに対応していく必要がある。実際僕は04年のセンターで、数ⅠAの選択問題で解く問題を「数列」に決めて試験に臨んだが、解き出すとΣが出てきて面倒そうだったので(実は簡単だったらしい)頭を休め、次のページの「平面図形」を軽く解き始めると、これがなんと小学生並みの図形問題で瞬殺。まあ数ⅠAは普通時間が余るので大したアドバンテージにはならないが、時間が無くなりがちな数ⅡBでは生死を分けるかも知れない。むしろ数ⅠAで余った時間をⅡBで使えたらと何度思ったことか…センター数学におけるフレックスタイム制の導入を求めます。

※ 数ⅡBは4問中2問を選択するのだが、焦ると1問しか解かずに20点吹っ飛ばす。
またよく言われることだが、冊子の前半にある「数学Ⅰ」や「数学Ⅱ」を解かないこと。
試験開始と同時に大きくバツをつければよいだろう。

〔東大二次試験〕

数学は一日目の午後に行われる。試験時間は午後2時～午後3時40分の100分。問題形式は大問で4題、一問20点×4で80点満点である。

数学は、その性格上、1問で20点という大差がつく可能性のある唯一の教科だ。数学ができないことは即ち死を意味する。「おお俺死んじゃうよー」という叫びが聞こえてきたので、蘇生術を述べよう。まず目標を「平均点越え」に設定する。「偏差値50」が生死の境目だ。ここをクリアしている人は次の段階に進んで良い。

一般に数学が苦手な人の多い文系の中で平均点を超えられないということにはかなり危機感を持つべきだ。過去8回の模試での文系数学の平均点を並べると、

駿台	21.0	28.7	22.0	24.5
----	------	------	------	------

河合	27.7	30.7	14.4	20.3
----	------	------	------	------

のように、ほぼ確実に平均点は20点台である。ということは、まず1問を確実に解ききれば合格点はすぐそこにある。70分かけて1問を解ききり、残り30分でもう1問を適当に解きかじる-というのが数学が不得意な人の最善の戦略だろう。(もちろん、早く解けてしまえばそれに越したことはない)しかしこれにもいくつか問題点がある。①解ききる1問をどのように見切るか、②その問題に70分かけて解ききれなかったらどうするのか、ということだ。

① 確かに4問の中から簡単な1問を見抜くことは非常に難しい。これは問題量をこなせば身に付いてくる能力ではない。しかし所詮文系の範囲内である。

30分くらい粘れば、確率の問題で実験を繰り返して漸化式を導き出すくらいはできると思う。全般的な傾向として、模試でも本番でも、4問あるうち最初の1番はたいてい易しめに出来ている。(しかし04年の東大ではその傾向が崩れた)あと問題文の長さや難易度は反比例する。つまり問題文の長さが長いほど簡単、という傾向がある。これは実用的。

② 70分かけて解ききれなかったということは、4問あるうちのもっとも解きにくい問題を選んでしまった and/or その分野の基礎力が不足していた、ということだろう。これは致し方ない。

ぶっちゃけ戦略たてるよりも解ける問題をがんがん解いていけばいいっていう話もあるけど…とにかく1問解ききりましょう。

次は「数学の偏差値が50以上」の人向けの基本方針を。

1. 難しい問題が解ける必要はない。簡単な問題から順に2問解ければ十分。

もちろん他の科目の状況にもよるが、入試本番において数学でとっておきたい点数というのは、文Ⅱ・文Ⅲなら40点、文Ⅰでも50点程度。「難しい問題は捨てる」とまでは言いたくないが、それよりも簡単な問題で2完することの方がはるかに重要だ。4問あれば、解けるはずの問題が必ず2問はある。試験時間の初めの5分を消費してでも、その2問を上手く見抜く-これがポイント。時間配分のプランとしては、

A：簡単な問題2問に40分ずつかけて、残りの2問は10分ずつくらいで見切る。

B：難しい問題1問は10分くらいで見切り、残りの3問に30分ずつかける。

などが考えられる。

余った時間は無理に「難しい問題を解く」のに使うのではなく、「簡単な問題（絶対にミスが許されない問題）の見直しに使う」方が無難だろう。計算ミスなどはここで発見しよう。要求されるのは、「難しいと判断したら潔く捨てる」「余った時間で欲を出さない」の心がけ。

2. 条件は使い切れ。

東大に限らず、条件を使わなくても解けるような問題はない。逆に言えば条件を全部使えば解ける。当たり前じゃん、と言われそうだが、意外とこの種のミスはするものだ。とくに図形問題・複素数などで起こりやすい。あと、条件を見つけたら出来る限り数式に置き換えよう。

3. とにかく図を描け。とにかく実験しろ。

図形問題では図を描け。マジで。ただし、空間図形の問題では図を描いても意味不明になることが多いので、断面をとるかベクトル計算で押していこう。

整数問題・確率・場合の数・数列の問題ではもうとにかく実験あるのみ。頭だけで考えていてもわからない。 $n=1,2,3...$ を代入していくべし。

〔なぜ点数が伸びないのか〕

ここでいう「点数が伸びない」とは、演習や模試での点数が“自分の解けたはずの点数”より低い、と言うことを意味する。以下、僕が塾でもらったプリントから再構成。

得点の伸びない理由は、大雑把に言って、

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ① <u>そもそも解けていない</u> | (得点があり得ない) |
| ② <u>ミスった</u> | (得点できたはずなのに得点できず) |
| ③ <u>減点された</u> | (得点は出来ているのだが失点) |

の三つに分類される。

「解けていない」タイプ

これも2つに分けられて、

- ① 時間が足りなかった
- ② 解き方がわからなかった

→(a) そもそも手も足も出なかった

(b) 手も足も出したがでしなかつた

ここで「できるとき」はどうなのかを考えると、「解き方がわかり、計算ができる」という流れになっている。当たり前だ。ということで第一に、解き方がわかる問題を増やそう、ということが言える（例えば複素数の問題を見たら、1. 文字のまま考える、2. 極形式で考える、3. 座標平面で考える、の3つの解き方を思い出す、ということ）。…しかしそれで片づけるのは何ともし難い。だいたいこのタイプについては仕方がない、という面があるのは事実で、「こんな解き方知らないよ」と言いたくなることも多々ある。

では何とかするのはどこか、というと、まさに「時間が足りない」タイプ。このタイプでは大概、手も足も出したが結局うまくいかず時間切れになってしまふことになる。では「うまくいかない」原因は？

- ・ 計算が複雑すぎてとても解けない
- ・ 求めても無駄なものを求めている
- ・ 同値性が崩れている

・ まず、計算が複雑になってしまったときは、赤信号なので止まろう。その先は崖です。できれば黄信号（計算が複雑になりそうなとき）で止まるべき。対策としては

- 別の方針を考える（図形的考察、長さではなく角度を変数にする etc.）
- 他に方針がないなら「計算が複雑」という評価が誤っていることも（因数分解できる・置換で楽勝 etc.）
- それもなければ計算ミス
- 方針がそれ一つしかなく計算ミスもないなら、押し切れるだけ押し切る

切る

という流れになるだろう。特に、解けない根性計算は本当に無駄なのでやめよう。時間も点数も単調減少。

- ・ 求めても無駄、のパターンについては、

式変形の前に、それを解くと何が求まるのかを考えると

というのが妥当する。手をつけてみるのはかまわないけど、「わからないけどとりあえず…」で複雑な計算を始めるのは自殺行為。

・ 同値性が崩れるのは、主に「両辺2乗」「式同士の計算（特に不等式）」「図形的考察」なので、これらについては慎重に。

「ミス」タイプ

前項との重複を除くと、

① 計算ミス

- (a)四則計算・不等号でミス
- (b)公式でミス
- (c)展開・因数分解でミス
- (d)写しミス

②勘違い・ど忘れ

くらいかな。(a)(b)については・・・まあしょうがないっすね。計算にはつきものなので。(c)については、煩雑な操作を行った場合は、何か適当な値を代入して、一致するかどうかチェックした方がいい。(d)について。これたまにやっちゃうんだよね。どうも離れた式を使うときに起こるようだ。距離が離れるときに注意。改ページとか。

計算ミス全体に言えることとしては、

指数・分数がらみの計算はミス率が非常に高い

ということ。一遍に全部計算しようとして痛い目にあったことは皆経験あるはず。さらに、序盤・勝負所 (= その後の計算結果が全てそこにかかっている所) のミスは最悪。後でミスを発見できても、直すべき範囲が膨大なために時間不足に陥る可能性大。次のステップに進む前に検算を必ずしよう。また、「焦るとミスが出まくる」とも言っておこう。

〈減点タイプ〉

採点の際に減点されているのは、ほとんどが

それは調べないと (書かないと) まずい

箇所だ。よくある例は、

分母が0になることはないか

不等式に掛ける値は正か負か0か

同値性を確認しているか (文字の変域など、ルートなど)

十分性を確認しているか

場合分けが足りているか

〈まとめ〉

全体として、どこが分岐点かを見極めることがポイントになる。主な分岐点としては、

方針がいくつか考えられる

図形的考察でいくか計算処理でいくか

複雑な計算の開始地点

場合分けの開始地点

があり、この辺で「そろそろ警戒だな」と思えばミスはかなり減るはず。ミスをなくすことはできないが、減らすことはできるのだ。

〔問題集〕

僕は高1の秋まで理系だったので数ⅢC範囲のもいくつか。

・「解法のテクニック 数ⅠA／ⅡB／ⅢC」 科学新興新社・フォーラムA ★★★★★
1850円／1500円／1500円／1800円

解説は次のを参照。

・「大学への数学 I A / II / B / III C」 研数書院 ★★★★★

通称「黒大数」。「解法のテクニック」の上位版にあたる。問題レベルが高めなので、手が出なかったら「解法のテクニック」から取り組もう。僕はSEGの授業のフォローアップに活用した。ちなみに雑誌の「大学への数学」(東京出版)とは関係ない。

・「モノグラフ」 科学新興新社・フォーラムA 700～800円 ★★★★★

整数・方程式・不等式・関数・図形と方程式・複素数・行列 etc.と、数学の各分野がそれぞれ1冊の問題集になっている。自分の鍛えたい分野のみを購入すれば良いが、「公式集(1238円)」は買っておくべきだろう。全部コンプリートすると26冊になり、「豪華版全26巻上製セット」なるものも3万円で売っている。もちろん買う必要は皆無。

・「大学への数学 1対1対応の演習 数I A / II / B / III C / 図形の基盤 / 数式の基盤」
東京出版 1456円 / 1262円 / 1068円 / 1553円 / 1524円 / 1381円 ★★

・「大学への数学 マスター・オブ・整数」東京出版 1095円

・「大学への数学 解法の探求 I / II / 確率」東京出版 1400円 / 1400円 / 1300円

・「大学への数学 新数学演習」東京出版 1500円

・「大学への数学 数学ショートプログラム」東京出版 1000円

・「大学への数学 新数学スタンダード演習」東京出版 1500円

「大学への数学シリーズ」はこのようにいろいろあるが、中学時代に少しかじっただけで、結局高校に入ってから使わなかった。そういえば雑誌「大学への数学」(1100円)も2年間購読していたのだが結局使った記憶がない・・・
親不孝でごめんなさい> <

・「鉄緑会 東大数学問題集」角川書店 5800円 ★★★★★

東大数学過去問題集。高3の時鉄緑の数学の授業で配られた。重くて、持って帰るのが大変だった。内容は、とても詳しい。詳しすぎ。別解が10個載っている問題もあるらしい。解説がやたら仰々しいので、数学が得意科目だという人は持っておいた方がよいが、それ以外の人は理系でない限り不要。過去問が欲しい人は「東大の文系数学23年」(教学社 2300円)でも良い。

* 「SEG 数学シリーズ2 確率ノート」SEG出版 1500円

* 「SEG 数学シリーズ12 図形と方程式」SEG出版 1900円

* 「SEG 数学シリーズ14 数学プロムナードI」SEG出版 1500円

* 「SEG 数学シリーズ15 数学プロムナードII」SEG出版 1500円

* 「SEG 数学シリーズ16 平面幾何」SEG出版 2300円

* 「闘う50題」SEG出版 1800円

・・・ほぼ使っていません。でも今見たら結構面白そう。

〔塾〕

- ・数理科学研究会 RIMS（中1～高1） ★★★★★ 最寄駅：新宿

略称「数理研」。僕の数学の基礎はこの塾で作られたと言っても過言ではない。算数から数学への移行に無理なく成功、本当は進度が速いのだがそれを感じさせないカリキュラムと、テクニックではなく厳密な数学の土台から教える授業が、今から考えると僕の数学の好成績につながっていた。

- ・大数ゼミ（中2 4月～3月） ★★ 最寄駅：渋谷

「大学への数学」執筆陣による授業なだけに、解説する問題のレベルは高かった。金属労働会館という、平岡の近くのビルで授業が行われていた。授業開始後1時間たつと、なぜか1度の例外もなく必ず睡魔に襲われたことを覚えている。授業のせいではない。

- ・SEG（中2～高2 12月、1学年飛び級） ★★★★★ 最寄駅：新宿

数理研のレベルに合わせるとどうしても1学年上にせざるを得ず、友達と塾になあなあで行くのは良くないと思ったために飛び級を決める。クラス分けテストでは毎回再試験を受け続けることで、結果的に上位クラスを維持し続ける。高2の時には文系にもかかわらず高3最上位クラス（雲T）に入ることに成功。夏を過ぎてからは文系テストゼミで古川に習う。僕は彼の授業はいいと思うのだが、友人の話を聞くと古川の授業には（というか古川本人への）好き嫌いがあるようだ。

- ・鉄緑会（高2 1月～高3 Last） ★★★★★ 最寄駅：新宿／代々木

「答案の書き方」を習ったことで、「解けたのに点にならない」ことが減り、基本を確立したもののそれまで安定していなかった数学の成績を上位圏で安定させることに成功。高2で受けた4回の東大模試での数学の偏差値は順に54/58/58/65だったのが、高3では74/82/66/91と浮上。ただ僕を教えていた人はこれで鉄緑をやめてしまったので、今後授業を受けても同じ結果が得られるかは不明。

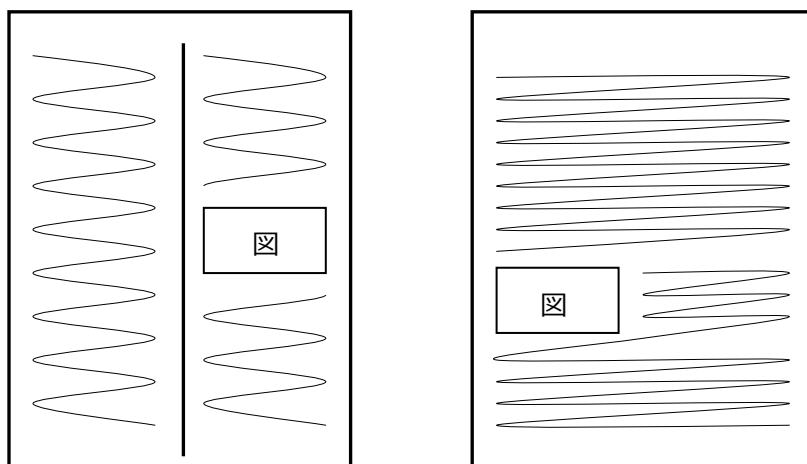
- ・啓明舎（高2冬期・高3夏期他断続的に） ★★★★★ 最寄駅：お茶の水

中学受験の時からお世話になっている塾。自らも気付かない自分の「癖」をわかっていてくれる先生がいると心強いものです。

〔直前期の勉強〕

過去問を解く。上述した「鉄緑会 東大数学問題集」または「東大の文系数学 23 年」を使う。載っている問題は同じである。どう使うかだが、ちょうど本番まで 20 日余りになった 2 月の初めから、1 日 1 年分を、100 分の制限時間で解いていく。英語や国語と違い、数学は毎日やった。B5 版の白紙の紙を 4 枚用意し、計算用紙も同様に 4 枚用意して、いざスタート。午後になると集中力がぶつ切れになる僕は、時間を 80 分に設定し、答え合わせの時間も含め毎日朝 10 時から 11 時半過ぎまでを数学に当てていた。それ以外に数学の勉強は特にしなかった。

ヒント：まず解く前に、**B5 の解答欄にタテに線を引き、2 つに分割**しよう。こうすることで答案が読みやすくなる上、たくさん書くことができる。同じ答案を並べてみるとその差は歴然。



左の方が好印象。

(ちなみに、模試・本番ともにこの作業による減点はありません)

〔英語と数学のまとめ〕

英語が足を引っ張るのは危険だ。なぜか。

- 1、文系では数学・現代文はあまり差がつかない。皆それほどできるわけではないから。
- 2、古文・漢文・社会でもそこまで大差はつかない。皆一定以上の得点はあげてくるから。

しかし英語は差がつく。しかもかなり大きく。数学の満点は80点しかなく、しかも高得点をあげるのはかなりきついで、英語の失点を数学で埋めるのは（数学が得意な人以外）かなり困難と言える。どうしても英語の成績が上がらない人は、単語力が不足しているか、基本文法をマスターできていないか、構文把握が出来ないか、英文を読むスピードが遅いかのいずれかであり、とにかく死ぬ気になって毎朝CNNを聴くなり英語雑誌を読むなり電車の中でリスニング教材を聴くなりして脳を継続的に英語にさらし続ける必要がある。英語の成績は触れた量に比例するのだ。

高3になると多くの人が社会に大きく時間を割くようになるわけだが、**英・数があまり出来ないのに社会ばかり勉強している人はかなりの確率で落ちる**、という噂は真実だった。英・数の基礎力は一朝一夕では身に付かず、他教科との兼ね合いから言っても高3になってから伸ばすことは難しいため（本当に難しい）、高3になる時点である程度完成していることが望まれる。具体的には、高2の冬に行われる「駿台 高2 東大レベル模試」では偏差値60以上を確保しておきたいところだ。ここで偏差値60を切っているならば、社会の勉強を本格的に始める前の3月・4月・5月に重点的につづしていこう。これは高3になってからも同じで、模試では英・数の偏差値が60を切ってはならない。できればどちらかの科目で偏差値70以上を一度はとっておきたい。

東大の英語は帰国子女に有利と言われているが、単語・文法・読解をおろそかにしている帰国子女は高3夏以降急激に成績が下がる。これはつまり、高3夏までは周囲より単語力があるために成績がいいのだが、それ以降は周囲の単語力が自分と同等、もしくはそれ以上になってくるため、帰国であることを理由に手を抜いてきた文法・読解面の弱点が顕在化してくるということである。ただそこに注意さえすれば、実際東大の英語は帰国子女にかなり有利（100点越えを狙えるくらい）だと言える。

単語・リスニングの力は、最後の最後、試験当日の朝まで伸びる。逆に言うと、直前期に単語とリスニングをおろそかにしてはいけない。あと、模試の前には（本番でも）、必ず「どの順番で解くか」をシミュレーションしておくこと。

数学ではとにかく2問完答すれば十分。それだけ。ただ完答が1問もないと精神的にきつい。実際僕は本番で実質的に完答が1問もない状態だった（0完4半）ので、かなり不安な2週間を過ごした。0完4半の40点と、2完0半の40点では気分的に全然違う。その危機感で後期勉強にも一生懸命取り組めたので良かったようなものの。とにかく2完です。まあ東大入試は数学が得意科目だとかなり有利。

国語

〔センター試験〕

センター国語Ⅰ・Ⅱの内容は以下のようになっている。(200点・80分)

1. 現代文(論説)
2. 現代文(物語)
3. 古文
4. 漢文

の全4問、50点×4の200点満点。勉強法は二次試験とほぼ同一なので省略。センター国語は1問あたりの配点がデカイことで有名である。配点が低いのは1の漢字の2点×5、2の言葉の意味の4点×3、3の古文単語の意味の5点×3くらいで残りは7点・8点がほとんど。パックものでは10点なんていう問題もあった。だからちょっとミスすると150点などあつという間に割り込んでしまう。良くて175、というのが妥当な評価だろう。さすがに140を切ると黄信号かな。目標は人それぞれだろうが、160～180というところか。現代文と古漢のどっちが得意かは人によって異なる。僕は現代文の方だった。ただ、東大受験生なら古漢で満点を取るべきだ、と一般に言われている。難易度で言えば二次試験より難しいのだが。対策は、とりあえず

・「センター試験過去問題集 国語Ⅰ・Ⅱ」(青本) 駿台文庫 880円 ★★★★★

もしくは赤本をやるべし。本試・追試が5年分10回載っている。解き方としては、まず本試を年度の古いものから順にやっていき、ひとまず結果を見る。あまり芳しくないようであれば、講習をとってみよう。駿台の霜をおすすめしておきます。後は参考書・問題集を買って解いてみるとか。

*「解決!センター 国語ⅠⅡ 現代文」Z会出版 1000円

が家にあったが結局使わずじまい。直前期には追試を年度の古いものから順にやっていく。(追試の方が本試よりも難しい)

※ よく言われることだが、冊子の前半にある「国語Ⅰ」を解かないこと。数学と同様、試験開始と同時に大きくバツをつければよい。

〔東大二次試験〕

国語は一日目の午前に行われる。試験時間は午前9時30分～午後0時の120分。問題形式は大問で4題、現代文(40)・古文(30)・漢文(30)・現代文(20)の120点満点。この形式になったのは2000年からで、それ以前は大問で7題であった(現代文・古文・漢文が2問ずつ+200字作文。作文が消滅した理由は、東大が合格最低点・最高点を公表するようになったため、採点基準が不明確な作文は敬遠されたからだろうと言われている)。

さて、とりあえず「現代文(60点)」と「古漢(60点)」を分けて意識しよう。特に古漢60点分は社会1科目分にあたり、課題文の難易度もそれほど高くないので、足を引っ張られないように。とはいえ僕は最後まで古文が苦手だったので偉そうなことは言えない。自慢じゃないが高2からの全8回の模試で古文が平均点を上回ったことはただの1度もない。ただ、直前期は相当古文に力を入れた(=それまで手を抜いていた)ため、本番では、問題が簡単だったということもあって何とか合格点はいったんじゃないかと思っている。古漢40点、現代文25+5=30点の計70点が目標。それではまず古文漢文から。

〔古文〕(30点)

とにかく単語と文法。古文はこれに尽きる。たぶんどんな本にも書いてあると思うが、「古文は単語と文法で勝負」が鉄則です。僕もこのことは知っていたのだが、単語は古今異義語がどうしても覚えられず、文法は助動詞を覚えた以外は適当にお茶を濁していた。直前期にようやく重い腰を上げて本格的に単語と文法を勉強し始めると、先の言葉の重みが身をもって感じられるようになった。よい子は真似しないように。文法のポイントは順に

1. 助動詞の活用と意味
2. 敬語
3. 助詞とその意味

であり、それらを全てマスターした上で、

4. 識別

が鍵となる。僕は1と2で止まっていたために成績が伸びなかったのだと思う。

・「土屋の古文単語222」代々木ライブラリー ★★★★★

単語集はこれしか使わなかった。極寒トークが痛いけど気にせず使おう。全部覚えるまで何回でも回すべし。単語集は他にも「マドンナ古文単語230」(学研)・「読み解き古文単語」(Z会)・「古文単語実戦トレーニング」などもあるが、タイトルで言えば「ゴロ513」に勝るものはない。これは「ゴロゴサティーン」と読む。中身は…微妙。

・「望月古典文法講義の実況中継(上・下)」語学春秋社 970円・1000円 ★★★★★

文法書はほぼこれしか使っていない。堅苦しくなくて良い。基礎をきちんと固められる上、範囲も全てを網羅しているため、最後まで役に立つ。

・「古文読解教則本〈改訂版〉」駿台文庫 650円 ★★★★★

試験前々日から始め、試験開始直前の廊下で終了させた。例文とその訳が 362 個のっている。実況中継で得た知識を確認するのによい。

- ・「中里の即決古文文法入門」代々木ライブラリー 728 円 ★★★

文法をマスターしていないうちから「入門」という名にひかれて解き出すのは良くない。力がついてからの確認用。

- ・「中里の即決古文頻出文法問題」代々木ライブラリー 757 円 ★★

高2の時にやった。が、やる気が出ず助動詞の章だけでダウン。

- ・「土屋の古文公式 2 2 2」代々木ライブラリー ★★★

- ・「土屋の古文文法 8 8」代々木ライブラリー 854 円 ★★

どちらも定番。可もなく不可もなくだが、どちらも基本なので買って置いて損はない。意外と使える。

- ・「ステップアップノート 30 古典文法基礎ドリル」河合出版 700 円 ★★

易。やるなら中学生のうちに。

他に、英単語と同じように辞書を引くことで古文単語を覚えていく正攻法もあるようだが、今は電子辞書の時代だしそこまでする必要はないと思う。

まとめ：単語集も文法書も自分の好みで選んだものを一つ仕上げ、後は適当に問題集をこなして記憶を保持していけば事足ります。

問題集としては、

- ・「古文上達 読解と演習 56」増進会出版社 971 円 ★★★★★

解説が詳しい。レベルもぴったり。

- ・「得点奪取 古文」河合出版 920 円 ★★★★★

採点基準つき。唯一にして最大のポイント。

- ・「古文読解の新技术」桐原書店 1100 円 ★★★★★

50 のテーマからなる実戦的な古文読解法。例題の文中の古今異義語に、全てすぐ横にカタカナで現代語訳がふってあるのには好き嫌いがあるだろう。

- ・「ナビゲート古文 読解へのアプローチ」河合出版 829 円 ★★★★★

単語と文法はマスターしたけれどイマイチ古文が読めないという人向け。

- ・「最強の古文 読解と演習 50」増進会出版社 971 円 ★

「古文上達」の上位版だが、これには手を出さない方がよい。難しすぎ。単語レベルも高すぎ。

その他、

- ・「らくらくマスター 古典常識」河合出版 800 円 ★★★

暇つぶしに読んでおくといつか役立つかも知れない。

和歌がわからんよ～という人は、とりあえず直訳してみたら。各句の末尾に注目し、終助詞や体言で切れているところで大きく区切る。終助詞の勉強が不可欠と言われるゆえん。

〔漢文〕（30点）

句形を覚えなさい、とおそらく周りに言われると思うが、むしろ句形以外にやることあるの？てことでとりあえず句形をざっと覚えてから問題集をこなしていこう。

・「句形演習 新・漢文の基本ノート」日栄社 300円 ★★★★★

内容は薄めだが、本の厚さも薄いので、この安さなら買いですな。

・「漢文道場」増進会出版社 874円 ★★★★★

基礎から応用まで使える。良書。

・「漢文読解の公式」学研 800円 ★★★

句形の解説が詳しく（詳しくすぎ？）、かつまとまっている。センター後に始めた。実際の試験問題の解き方だが、以下の4つの戦略で行こう。

- ① 傍線部の直前／直後に、同値か対立の形で答えがある。さらに「注」の内容は答案に入ってくることが多いので注目。
- ② 捉えにくい漢字は熟語にして考える。その他頻出漢字として「異」（＝すぐれている、という意味）、「裏」（＝中、という意味）などに注意。「者」は人とは限らない。
- ③ 漢詩について。奇数句と偶数句は同値か対立の関係にある。つまり奇数句を問われたら偶数句を見よ。逆も同じ。
- ④ 比喩や象徴の内容を聞かれても、まずは直訳。それから抽象的に置き換える。

あと漢文の語順は英語と同じなので英語に置き換えるとわかることもある。「不常」は‘not always’、「常不」は‘always not’など。

〔現代文〕（40点＋20点）

1番は(1)～(4)まで2行（＝70字程度）、(5)は100字以上120字以内の指定。(6)は漢字5コ。

4番は(1)～(4)全て2行。

以下に述べることは駿台の霜に習ったことです。エッセンスだけを並べてみると、

- ① まず始めに意味段落に分ける。
- ② 本文末尾から冒頭に戻って構造を把握し、全体として筆者の言いたいこと（＝主題＝テーマ＋結論）とその根拠を要約する。
- ③ (1)～(4)では、設問の解答は、傍線部のある意味段落の中で全て考える。
各意味段落で筆者の言いたいこと（＝主題）とその根拠を要約する。
- ④ (5)では、②でつくった要約に、傍線部の内容に沿うよう少し手を加える。

まあ手順を並べるのは簡単だが、じゃあ実際にどうするんだということ・・・難しい。要は課題文の中の主題を、論理を元に読み解け、ということ。主題？論理なんか使わなくても読み取れるじゃん、という人、その通りです。でもそれは無意識のうちに論理関係を使って読んでいるということ。では論理とは何か？それは同値（＝）と対立（⇔）のこと。じ

やあ同値、対立って？

- ①「A」と同内容のものを、Aとは異なる「B」という形で筆者が提示している場合、「AとBは同値」と言う。(A = B)
- ②「A」とは逆の「C」が述べられている時、「AとCは対立」と言う。(A ⇔ C)

これだけ。実はこれは英語でも、世界史でも、地理でも、入試問題に限らず、いろんなところに顔を出してくるのだが・・・できるだけ「同値」と「対立」を日常生活でも探す練習をしてください。そのうち分かります。

あと漢字は1個2点らしい。落とさないように。(模試では1個1点だが)

- ・「頻出現代文重要語 700」桐原書店 800 円 ★★

論説文に出てくる言葉が難しくてわからない、という人は買った方がよい。実際に単語が分かるようになるだけで、それまで伸び悩んでいた国語の成績が一気に伸びる人もいるらしい。

- ・「現代文のトレーニング（基礎編・記述編）」増進会出版社 971 円・1166 円 ★★★

やってもやらなくても成績は変わらない。

- ・「得点奪取 現代文」河合出版 1100 円 ★★★★★

採点基準付き。

〔塾〕

- ・SEG（現古漢）（高2夏期～高212月、1学年飛び級）★★

桑島という先生が教えていた。あまり印象がない。

- ・駿台（現）（高3 ALL）★★★★★ 最寄駅：お茶の水

Sα現代文コースで霜 栄に習う。これがツボ。この講座と出会って良かった。受講をお勧めします。問題の解法だけではない、テキストの文章内容・テーマの解説からも力をもらう。直前講習では「問題文だけ見て答えの枠組みを作る」なんてこともやった。

- ・駿台（古）（高3冬期）★★★★★

「古文解法プレゼンテーション2」を、栗原という面白いおじさんに習う。テキストの充実っぷりがGOOD。源氏物語のストーリー付き。

〔直前期の勉強〕

毎朝古文単語を 15 分やってから、英語と同様模試問題集を解く。青本は 5 回分、白本は 6 回分、河合の紫本は 4 回分。「東京大学への国語」(駿台文庫・1238 円)、「東大入試プレ問題集 国語」(代々木ライブラリー・1280 円)、「入試攻略問題集 東京大学 国語」(河合出版・1360 円)。河合の紫本のみ解答欄が付いているので、50 枚ほどコピーして使った。第 4 問の解答用紙を少し加工すれば古文・漢文用の解答欄が作れる。2 月の上旬から 1 日 1 回のペースで解いていこうとしたがさすがに無理で結局 1 日おきに解くことにした(英語と同じ)。模試問題集を解かない日は、同じ時間で「東大の古典 23 カ年」(教学社・2300 円)古文 3 回分(30 分)、漢文 3 回分(30 分)、「古文公式」(20 分)、「漢文読解の公式」(30 分)、駿台現代文の授業の復習(40 分)をやっていた。あまり予定通りには進まなかったが・・・あとは「望月古典文法講義の実況中継」を最後に見直す。「古文読解教則本」を最後の最後に。

〔社会の科目選択について〕

社会について。東大は日本史・世界史・地理の中から 2 科目を選択する必要がある。まずは「世界史」を選んだ方がよい。過去問や平均点を見ても、同じ勉強量で確実に他 2 科目より点が取れる。あと 1 つどちらを選ぶかだが、僕は「地理」をオススメします。地理と日本史のどちらも世界史と少しずつかぶっているのだが、その適用範囲は地理の方が広い、と自信を持って言っておこう。さらに方法と知識を学べば世界史以上の高得点が期待できる。でも中学受験では日本史が得意だったという人は、その知識を生かしたほうがいいかもしれない。

いずれにせよ、世界史では確実に 40 点、もう 1 科目も少なくとも 35 点は確保したい。解く順番は、「世界史-地理選択」ならば「世界史第 3 問・第 2 問 (20 分) →地理 (75 分) →世界史第 1 問 (50 分 = 草稿 30 分、本稿 20 分) →残り見直し」のようにするのがよいだろう。

〔解答用紙について〕

東大模試などを受けてもらえれば分かるが、東大の地理歴史の解答用紙は特殊であり、地理・日本史・世界史で同じ解答用紙を使わなければならない。解答用紙は 2 枚が配布され、各科目 1 枚の解答用紙を使用する。それぞれの解答用紙には解答する科目名を記入し、上部の該当する科目名をハサミで三角に切り取らなければならない。実際の入試での解答用紙はそれぞれ A 3 サイズ・両面印刷で、おもて面が解答欄イ・ロ、うら面がハ・ニである。(解答欄ニは日本史でしか使わない)

これらを取り違えて書いてしまえばその時点で不合格決定である。(英数国が超人的にできる場合はその限りではない) 見直しを忘れずに。

まずは世界史から。

世界史

<センター試験>

センター試験だが (100 点・60 分)、東大受験なら絶対に「世界史 A」を選択すべきである。まず世界史は地理よりも点を取りやすく (むしろ地理は点を取りにくい、90 点台は至難の業)、かつ「世界史 A」は「世界史 B」よりも内容的に簡単だからだ。A は B と比べ近現代史の比率が高いそうだが、過去問を見る限りそれほど変わらない気がする。なお、世界史 A の過去問は書店にはないので、欲しい人は

<http://eurekajwh.hp.infoseek.co.jp/index3.html> (エウレカ! 受験世界史) をチェキ。ここには他にも東大の短論述だけを集めたものとかもあって便利。使い倒そう。

センター対策というのは特にないが、やるとすれば

・「センター試験への道 世界史B」山川出版社 1200 円 ★★★★★

センター世界史Bの過去問をテーマ順に並べてある。マーク式なので一度に大量にこなせる。1日50ページずつやれば5日で終わる計算だ。三が日の間に一気にやるのも良いだろう。本番前に間違ったところだけ2・3回まわす。ほぼ同じ内容のものに「大学入試センター試験完全対策 世界史B問題集」(山川出版社)があるが、「センター試験への道」の方がすぐれている点は、問題の横に各選択肢ごとに解説が書いてあり、たとえ答えが合っていたとしてもその導き方が間違っている(つまり偶然答えが合っている)ケースを容易にチェックでき、より本質的な理解が得られることである。

・「センター試験 世界史A・B一問一答」三省堂 950 円 ★★★★★

世界史Aの過去問の量が少なくて不安だという人はこれもやっておこう。Aの問題が載っている。でもやっぱりBがほとんど。しかし、なぜこの本の筆者はこんなに写真に写りたがるのだ。

問題集と同じくらい重要なのが年号暗記である。これはもちろん二次試験対策でもあるのだが、センター試験でも大きな力を発揮する。露骨な暗記をみな軽視しがちだが、この際ゴロでも何でもいから年号をできるだけ多く暗記してしまおう。絶対に無駄になることはない。センターでよく見られる「起こった順に並べよ」問題ではその威力が発揮される。因果関係など考えなくてもOK。速い。しかし書店には年号暗記のための良い本がない。「年号暗記」をウリにする本はあっても、載っている絶対量が少ない。ということでここではあるHPを紹介しようと思ったのだが、久しぶりに見たらなんと消えている(03年夏にはあった)。他のページも見したが、そこよりもシンプルかつ充実しているものは無かった。まあ今はいろいろ他にも年号暗記を載せたHPがあるのでそっちを使っても全く問題はないであろう。年号暗記の利点はそれだけでなく、まだマスターしきれていない範囲(特に近現代史)を、年号のトピックを見ながら追っていけるので、一石二鳥になる、ということ。僕はプリントアウトに細かい字で参考事項をどんどん書き加えていった。

なお、センター本番では模試と違って「世界史AB・日本史AB・地理AB」の6教科が全部で一つの冊子になっているため、もしAよりBが簡単だったりしても(そんなことはないと思うが)本番で変えることは可能である。

〔東大二次試験〕

社会は2日目の午前に行われる。試験時間は午前9時30分～午後0時の150分。世界史は大問で3題、60点満点（1題20点前後）である。もう1教科との兼ね合いもあるが、合計75分以内で仕上げたい。

〔第1問〕

大論述。行数は15～20行（1行＝30字）。問題は過去問を見てもらうとして、現実的対策はほぼ1つ。東進の講習で荒巻を取れ。東進の東大特進コースは特待生制度があり、東大模試でC判以上なら入会金が不要で、さらにC判なら1科目、B判なら2科目、A判ならなんと3科目が無料になる。テキスト代はいくらか必要だが、世界史のカリスマ荒巻の授業がタダで受けられるのはここだけ。第1問についてはそれ以上言うことはない。（ちなみに荒巻のZ会での通常授業や、四ッ谷にある彼の個人塾に通うことは、世界史好き and/or 荒巻の信奉者でない限り薦めない。費用対効果、時間効率を常に考えよう。東進の講習で必要十分である）そのかわり直前期でよいから復習をきちんとやること。

ちなみに模試の世界史第1問はただの知識羅列問題なので、もうひたすらに知識を並べていけば自動的に点が取れます。無駄な修飾語句を出来るだけ省き、xx年に誰が何した系のことをたくさん書こう。もちろん本番でこんなことやったら2～3点もらえるかどうか。

〔第2問〕

例年短答問題が中心、短論述が数問で、近年は短論述の数・量ともに減り第3問の形態に近づきつつあったのが、04年は4行の中論述×3問という形になった。来年以降もこの形が続くのかは分からないが、対策しておくに越したことはない。どうせ模試でも出るし。対策と言っても、小テーマをチェックしておけばよい。（ウエストファリア条約の意義と背景、キリスト教東西分裂の経過など）

実は僕は本番（2）で、何を考えたか、「西ヨーロッパは皇帝教皇主義であり、皇帝と教皇がイデオロギーの各頂点に位置し両者は対等な関係にある」などとやってしまった。あべし。

〔第3問〕

短答問題。対策は一問一答集でOK。たまに頻度数2くらいの単語が出るが、どうせみんなも書けないのだし気にする必要はない。

〔世界史の勉強法〕

① 必要なもの

- | |
|-------------------|
| I 教科書（東京書籍のがオススメ） |
| II 世界史B用語集（山川出版社） |
| III 資料集 |

何が何でも必要なのはこれだけ。なによりも基本。僕がZ会でもらったプリントには、「全国の学生が東大に合格している、という事実を考えてみましょう。地方の学生たちは、こ

の3つのツールを徹底的に使いこなして、合格に十分なだけの実力を手にしているのです。基本がしっかりしていない人ほど、教科書に書いていないような些末な知識を追いかけることで不安を解消しようとしたり、難解な本に手を出して分かったふりをする傾向があります。」とある。

なお、東大の問題は東京書籍の教科書を元に作られているものも多いそうなので（By 荒巻）、教科書は東京書籍をお薦めしておきます。聞くところによると東大の好きな経済史が詳しいらしい。資料集については後述。

② 大まかに流れの把握

世界史の授業を聞いていなかったり、そもそも学校で世界史をあまりやってくれなかったりする人は、いきなり暗記から始めても、歴史展開が未知であるからその量の多さに恐れおののくだけだろう。そこでまず歴史全体の大まかの流れを把握しようということである。細かい単語・年号は最初は飛ばして読んでゆく。始めから全部詰め込もうとすると脳が吹っ飛んでしまう。教科書は読んでいてつまらないために密度の濃い文章を漫然と読み流してしまう恐れがあるので、まずは

・「ナビゲーター世界史1～4」山川出版社 全4巻、各933円 ★★★★★

基本的な流れが不安な人は、早いうちに一通り読破しておくといい。同様のものに「青木世界史B講義の実況中継（1～4＋文化史、全5巻）」（語学春秋社、各1000円）があるが、単語がかなり偏っている上、実況中継にありがちな極寒トークに耐えられない人にはお薦めできず、メイン本にするのは危険（文化史の巻だけは偏りが少ないため、単独で購入しても良い）。論述の論点を学ぶという観点から言ってもナビゲーターをメインにした方がよい。

・「ヨコから見る世界史」・「タテから見る世界史」学研 各1000円 ★★★★★

難しい言葉で言えば、「ヨコ」というのは共時性比較、「タテ」というのは通時性比較のことである。中身はなかなか面白くて、あっという間に読み終わってしまった。3回ほどまわす。試験当日、これを読んでいる受験生をちらほら見かけた。ヨコ→タテの順でやった方がよい。ちなみにこの本の著者の斉藤整という人は駿台とエミールで教えている。そういえば、風俗を扱った「下から見る世界史」というのがあると友人が言っていたがそんなものは無い。

・「世界史Bワークノート」山川出版社 638円 ★★★

ぱっと見レベルは低めだが、意外とあなごれない問題があって面白い。ナビゲーターと組み合わせよう。

・「世界史の見取り図（全4巻?）」東進ブックス 各1000円前後 ★★★

荒巻著。受験用知識を求める人にはあまり向かない。世界史に興味が出てきた人にはいいかもしれない。既習者でも読み物として楽しめる。

③ 通史のインプット & 定着

大まかな流れがつかめたなと思えるようになってきたら、問題演習の前に、知識を吸収・定着させる作業が必要になる。次のどちらかを使う。

・「詳説世界史ノート」山川出版社 714 円 ★★★

・「書き込み教科書 詳説世界史」山川出版社 762 円 ★★★

これと並行して一問一答集をやる。僕が使ったのは

・「入試に出る 世界史 B 用語 & 問題 2000」増進会出版社 ★★★★★

ただの一問一答ではなく、右ページに「まとめ」が書いてある点がグー。これは荒巻が書いているようだ。トリビア。

・「よくでる世界史 B 一問一答」山川出版社 657 円 ★★★★★

ただの一問一答ではなく、各章の最後に正誤問題形式の確認問題がある。僕はこういう「誤りがあれば指摘せよ」式の問題（センターにも出る！）が苦手なので重宝した。

・「一問一答 世界史 B 用語問題集」山川出版社 638 円 ★★★

ただの一問一答である。

・年号暗記 （前述） ★★★★★

これらは、入試直前期まで回し続けなければならない。

④ 問題演習

さていよいよ問題演習だが、実は一問一答が第 2 問対策になっているため、主に第 1 問の大論述対策となる。まあ今は塾で添削してもらったり Z 会の通添（WJ）なんかもあるので自分で問題集 1 冊仕上げるというのは厳しいが、

・「中谷の世界史論述練習帳」旺文社 1100 円 ★★★★★

論述に必要な方法論は全てこの中に書いてあります。しかし方法論だけでは中身が伴わないので、東進の講習を取って補完しよう。

・「詳説 世界史論述問題集」山川出版社 857 円 ★★★★★

問題数 209。薄いが問題数は豊富で図や年表などを駆使したレイアウトもきれい。学校の校内模試の前に毎回駆け込みで読んでいた。頻出テーマを扱っている。

・「世界史論述のトレーニング」増進会出版社 1000 円 ★★★

問題数 70。採点基準付きというのが良いが、展開される「生徒の答案例」が普遍的なものでないのが残念。何せこの生徒、めっちゃマニアック情報を知っているかと思えば時々あほなミスをする。

※ 知識が整理されていない状態でいきって論述演習などやってもあまり意味が無い。高 3 夏・秋以降にしよう。論述を書くときは必ず、図でも文章でも良いからメモを作ること。

⑤ 補強

ここからは世界史を得意科目にしたい人向け。

- ・「攻める世界史 現代史」増進会出版社 1000 円 ★★★★★

進捗の関係で手薄になりがちな現代史をこれで一気に補完しよう。筆者は荒巻だが特記するようなことはない。私大向け知識も一部含まれているので各自判断すること。補足の一問一答はやる必要なし。

- ・「攻める世界史 テーマ史」増進会出版社 1068 円 ★★★

他の勉強に飽きたときに読み物として。問題は解いても解かなくても。

- ・「攻める世界史 各国史」増進会出版社 1068 円 ★★★

自分の苦手な地域を補強。苦手な所が本番で出ても、知らなかったでは済まされない。でも詳しすぎかな。

- ・「世界史テーマ学習 8 0」山川出版社 800 円 ★★★★★

読み物として。時間に余裕があるときにぜひ。

- ・「テーマ別世界史 B」山川出版社 780 円 ★★★

Z 会のテーマ史より細かい。5 分の 1 くらいに薄める気持ちで。

と世界史に関しては総量が膨大なために、横から見たり縦から見たり見取り図を作ったりと忙しいわけだが、「東大入試向けにもっと効率いい勉強法はないの？」という横着な人向けのおいしい世界史の勉強法を紹介しよう。とはいえこれには④までの段階を一応クリアしてきた（またはクリアする予定である）ことが前提である。技は 2 つ。（模試には役立たない）

- ・NHK 高校講座 世界史

これは NHK 教育テレビで放送している高校生向けの世界史の授業。30 分番組。幾人かの大学教授が教えているのだが、実は東大の教授もその一部を担当している。一般に大学教授というのは自分の専門しか研究していないので、東大教授がここで扱っているテーマを重点的に勉強すれば OK！ということになる。嘘だとも思うかも知れないが、実際、03 年度の高校講座では「銀による世界経済の成立とマニラの繁栄」について述べている回があり、04 年入試の世界史第 1 問は「16 世紀から 18 世紀にかけての銀による世界の一体化について概観せよ」という内容だったので、大きくかぶっていることが分かる。気付いたのは試験が終わってからだったが、番組は見なくてもいいから書店でテキストを買って内容をチェックしてください。あ、でも見ないと誰が担当なのか分からないか。あと、東大には両シチリア王国専門の教授がおり注意。12 世紀ルネサンスの原因は十字軍ではなく両シチリア王国です。

- ・資料集

各自学校で配られた資料集を使えばよい。僕は学校で配られた「ユニバーサル新世界史資料」（帝国書院・848 円）を使った。他の資料集を見ていないのでわ

からないが、「ユニバーサル新世界史資料」には各世紀ごとに「〇〇世紀の世界」のように世界全図が載っており、その下には「〇〇世紀の世界を見る目」といういわば概観が短文で述べられている。たぶん他の資料集にも同じようなものがあると思う。僕はこの文章と簡単な図を各世紀ごとに単語カードに書き、同時に「□世紀は何の時代か」ということも書いておいた。例えば、「7 世紀＝イスラムの時代」「8 ～9 世紀⇒ 大文化圏の成立」「10 世紀＝分裂の時代」「13 世紀＝モンゴルの時代」「16 世紀＝国際分業体制の成立」など。これは大局的視点を要求される第 1 問対策に非常によろしい。

〔塾〕

- ・ Z 会（高 1 冬～高 2 5 月、1 学年飛び級） ★★★ 最寄駅：小川町／恵比寿
高 1 の冬は坂本という人の授業を取るがいかにせん知識がほぼゼロの状態なのでつらい。高 2 の 4 月からは無謀にも高 3 の荒巻クラス W 3 J に入る。ガスパルタ形式が性に合わないのと知識詰め込みが追い付かず 5 月でやむなくドロップアウト、リベンジを誓う。
- ・ 啓明舎（高 2 夏～高 3 Last） ★★★★★
知識がなければどうにもならないことにやっと気付く。しかし学校では世界史の進度と内容が明らかに間に合わないので、どうやって知識を仕入れるのか途方に暮れる。6 月から開講する世界史のクラスなど無いのだ。そこで小学校の時お世話になった啓明舎にコンタクトを取り、世界史通史を個人授業で教えてもらう。これが結構良くて、あれほど大量だった世界史がいつのまにか頭に入っていた。もちろん復習を怠るとザルのように抜け落ちてゆくのだが、それを差し引いても通史の骨組みは身に付いたと言える。通史終了後は直前期まで論述の添削をしてもらった。
- ・ 鉄緑会（高 3 ALL） ★
良くない。
- ・ 東進 東大特進コース（高 3 春・6 月・夏・秋・冬・直前（直前のみビデオ）） ★★必須★★
内容は上述したとおり。取らない理由がない。

〔直前期の勉強〕

一問一答と年号暗記を最後までまわし続ける（15 分 × 2 + 20 分）。模試問題集の第 2 問・第 3 問のみを 20 分で解き、自己採点する（青本：3 回分 1238 円、白本：6 回分 1280 円、紫本：4 回分 1360 円）。あとはそれまで先延ばししてきた東進の復習を毎日 1 時間やり、重要な事柄を全て単語カードにする。全部で 50 枚ほど。

注意：世界史にはまる人は相当のめりこんでしまうのだが、英語と数学のまとめでも述べたとおり、英・数があまり出来ないのに社会ばかり勉強している人はかなりの確率で落ちる。社会だってもう 1 科目あるし、センター理科とかもあるわけだし。大学入ってから好きなだけ勉強できます。今はほどほどに。

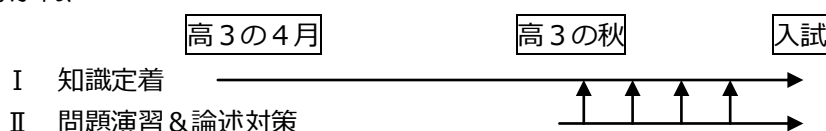
地 理

〔東大二次試験〕

地理は大問で3題、60点満点である。1問20分以内、見直し10分を含め合計70分以内ならば余裕。論述量は小問で1〜3行。減多にないが、長くて4行。総論述量は3問合わせて例年700字前後。04年度は840字に増加。短答問題は基本なので落とさないように。

〔地理の基本的勉強法〕

地理はほとんど勉強しなくても15〜25点は取れる。だから、「それにちょっとプラスαするだけだから勉強量少ないんだよね」とか「じゃあ論述はどう書いたらいいの？」みたいなことをいきなり言い出すのだが、しかしそれでは得点は伸びません。地理の勉強は2段階に分かれ、



要は、知識定着というのは最後の最後まで必要な、いわば英語における単語暗記みたいなもの。

そしてある程度基本知識をさらったら、今度は問題演習から新たな知識を得てフィードバックしていく。上に出した意見というのはどちらもⅠを無視した発言で、点が伸びないわけです。

まあ「地理は知識より地理的思考力を問う科目」なんていうもっともらしい言葉があるせいで、実際常識で解けてしまう問題もあったりして、いきおい「地理の勉強は適当でいいか」という落とし穴にはまってしまうのは仕方ないかも知れない。しかし、「知識はあるに越したことはない」のではなく、実際は「知識がないと厳しい」のだ。

でⅠとⅡを同時にやってしまいたいなら鉄緑会の地理受験科がオススメ。ここにいれば全自動的にⅠとⅡが終了し高得点がとれるようになる。実際11月の駿台模試の地理では、このクラスの生徒が1位(52点)2位(49点)など上位層を独占。びっくり。(僕は駿台模試の地理ではなぜか2回とも平均以下だった。しかし鉄緑会地理受験科演習(過去問演習)では総合1位だった…受験生活の7不思議の一つである)鉄緑会に行くのは余りお勧めしないが、高3になったら地理だけは取るべきだ。取ったら必ず、授業で配られる一問一答だけは復習しよう。僕はこの一問一答(と、おさえるべき緯度・経度)を全て、ファミマで売ってる111枚組100円の単語カードに書いていった。試験前には全部で5冊になり、直前期は1日1冊30分クイズ感覚で復習した。演習の成績でいつも上位に入ることが出来たのはこれのおかげだと思っている。(蛍光ペンで分野別に分類しておくとい)

鉄緑行かないよ、という人は参考書を使うか、学校の授業を使うか、予備校に行くかのどれかだろう。他の塾のことはあまり知らないのととりあえず参考書等を。

・「権田地理B講義の実況中継（上・下）」語学春秋社 980円・1000円 ★★★★★

地理のつかみはこれでOK。

・「地理の完成」山川出版社 790円 ★★★

「武井の地理」。詳しい。これを1冊仕上げればよいだろう。ただ正直言って続かない人が多い気がする。

・「みてすぐわかる 新地理」三省堂 ★★★★★

「武井の地理」をポケットサイズにしたらこんな感じか。コンパクトに必要な知識が圧縮されていて良い。

・「データブック オブ ザ ワールド」二宮書店 600円 ★★★★★

・「資料 地理の研究」帝国書院 857円 ★★★★★

資料集。どちらも捨てがたい。暇つぶしにも良い。

・「地理用語集」山川出版社 790円 ★★★★★

世界史ほどではないが、地理用語集の使用頻度は高い。

もちろん地図帳も忘れずに。一問一答用語問題集は不要。無駄に都市名が出てくる。問題集を適当にこなしたら、あとは過去問をとにかく解こう。同じような問題が何回も出題されているので。

〔アドバイス〕

・時間配分：一問20分を標準、常に時計を見て自己管理。

・解けない問題：

①解答欄に行数分スペースを確保して飛ばす。あとでもう1度考える。

②これまで自分が見てきた知識と必ずどこかで関係しているはずなので、参考書・テキストの章立てを思い出して、当てはまる項目がないかどうか検討。論理的思考で。

※模試の地理は本番よりも難しい出題であることが多い。成績が悪くても凹まないように。

〔指定語句の使い方〕

指定語句が使われている問題は、指定語句をそれなりにつなげれば解けるようなものも多い。しかし、それでは他の受験生と差が付かないのだ。指定語句の正しい使い方。

① 具体的に展開

② 因果関係を補う

例を挙げよう。

「南関東ガス田は市場である大都市に近接しているため、輸送コストがほとんどかからないはずであるが、その利用は進まず、LNGの輸入はいっそう増加している。南関東ガス田の利用が進んでいない理由について以下の指定語句を用いて3行以内で述べよ。使用した指定語句には下線を付せ。指定語句：事業コスト 公害」

「事業コストが高い」「公害が発生するおそれがある」なんてことは地理を勉強していなく

たって分かる。だから、「どういう点の事業コストか」「どういう公害か」(＝①具体的に展開)、「なぜ事業コストが高いのか」「なぜ公害が深刻か」(＝②因果関係を補う)を自分で考えて述べる必要がある。解答：

「大都市圏では人件費や採掘用地の買収などの事業コストが極めて高く、海外から輸入した方が安くつく上、大気汚染や地盤沈下と言った採掘に伴う公害の影響も深刻であると考えられるから。」

指定語句のある問題では、下線をつけるのを忘れないように。河合の模試で、下線を1カ所付け忘れたために名前が載らなかったことを覚えている。

〔塾〕

・鉄緑会（高3 ALL） ★★★★★

上に述べたとおり。

・東進 東大特進コース ★★

延長しすぎ。たまには別の視点から地理を捉えたい、と思っている人には良いだろう。

〔直前期の勉強〕

鉄緑地理の一問一答を1日30分。配られたきりやっていなかった補充問題を1日30分。それが終わってからはテキストの見直し。それから模試問題集を60分で解き、自己採点する（世界史の項参照）。模試を解かない日は鉄緑演習の復習を。あと地名講座を20分。それだけ。

〔世界史と地理の攻略〕

- ・始めに設問・問題番号を全てふってしまおう。答案の書き方：

(イ)

設問 A

(1) a-○○、b-××、c-△△、d-□□

(2)

〜〜〜解答〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜。

(3)

〜〜〜 5 〜〜〜解答〜〜〜15〜〜〜20〜〜〜25〜〜〜30

〜〜〜35〜〜〜解答〜〜〜45〜〜〜50〜〜〜55〜〜。

設問 B

〜〜〜〜〜〜〜〜〜解答〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜。

設問 C

なお地理では小問番号の後改行して解答を書いて良いが、世界史では、模試の場合、小問番号の後改行すると-1点になる時がある。本番ではそんな細かいところに目くじらを立てたりはしないので気にしないように。

- ・指定語数の8割に達しているか？
- ・長文・読みにくい文は避ける。
- ・「Aして、B」はなるべく使わない。AとBの論理関係が不明。明確な接続詞を使うこと。
- ・題意からずれないように。

例：「ソロンの改革について述べよ」と「民主制の確立過程におけるソロンの改革の意義について述べよ」では全く解答は異なる。

- ・解答例から自立せよ。
- ・まずは書き出す勇気を。完璧な答案など存在しない。
- ・論理（同値と対立）を容易に読み取れるような文章を書こう。

☆見直し：解答用紙の取り違え

解答用紙のイロハ（＝解答用紙の裏表）

氏名受験番号

設問の行数制限

指定語句への下線（ほか設問の指示の順守）

題意の取り違え

誤字脱字

「氏名受験番号」の他は全て、僕がミスった経験のあるものです。絶対注意。

☆配点を読む：地理では 1 行につき 2 つのポイントがあると言われている。これに従って配点を予想しよう。

※ 論述の場合、百人いれば百通りの癖があるので、添削を受ける中で自身の癖を発見し、その対策を積み重ねていかなければならない。ということで添削は必ずしてもらいましょう。

問題集一覧

英語

・速読英単語 入門編／必修編／上級編	増進会出版社 各 900 円	★★★
・速読英熟語	増進会出版社 900 円	★★★
・DUO 3.0	I C P 1200 円 (C D 1200 円)	★★★★
・Word Book 1600	W I S E (非売品)	★★★★★
・鉄緑会 入試英単語 完成編	鉄緑会英語科 (非売品)	★
・バタスタ 英単語 1200 // 英熟語 600	旺文社 各 1200 円	★★
・英文法・語法のトレーニング2 (演習編)	増進会出版社 971 円	★★★★
・英語頻出問題総演習《通称 桐原の英頻》	桐原書店 1260 円	★★
・新・英文法頻出問題演習 (PART 1・2)	駿台文庫 860 円・780 円	★★★★
・基礎英文法問題精講	旺文社 880 円	★★★
・英文法標準問題精講	旺文社 820 円	★★★
・発音・アクセント総仕上げ	駿台文庫 660 円	★★★★★
・マーク式基礎問題集 4 英語[文法・語法-応用]	河合出版 667 円	★★★
・英語要旨大意問題演習	駿台文庫 951 円	★★★★★
・基礎和英問題精講ライティング	旺文社 880 円	★★★
・和英標準問題精講	旺文社 820 円	★★★
・和文英訳の修業	文建書房 1500 円	★★
・大学入試英作文辞典	S E G 出版 1500 円	★★
・リンガメタリカ	増進会出版社 1100 円 (C D 2000 円)	★★★
・英単語・熟語ダイアログ 1200	旺文社 1300 円	★★★★
・速読速聴英単語 Core1800	増進会出版社 1900 円	★★★★
・英文和訳演習 (入門編・基礎編・中級編・上級編)	駿台文庫 600~700 円	★★★★★
・基礎英文問題精講	旺文社 880 円	★★★★
* 英文大意要約のストラテジー	河合出版	
* 英文解釈のトレーニング	増進会出版社 1166 円	
* 英文解釈のトレーニング PLUS	増進会出版社 1166 円	
* これが英作文ー入試英作文は英借文でしかない！ー	河合出版 953 円	
* 東大の英語 23 カ年	教学社 2300 円	
(模) 東京大学への英語	駿台文庫 5 回分 1952 円	
(模) 東大入試ブレ問題集 英語	代々木ライブラリー 6 回分 1880 円	
(模) 入試攻略問題集 東京大学 英語	河合出版 4 回分 1952 円	

数学

・入試の軌跡 センター試験	東京出版 1000 円	★★★★
・解法のテクニック 数(特)A・(関)・B・(定)C	フォーラム A 1850 円/1500 円/1500 円/1800 円	★★★★
・大学への数学 数(特)A・(関)・B・(定)C	研数書院	★★★★★
・モノグラフ	フォーラム A 700~800 円	★★★★
・大学への数学 1 対 1 対応の演習 数(特)A・(関)・B・(定)C・図形の基礎・数式の基礎	東京出版 1456 円/1262 円/1068 円/1553 円/1524 円/1381 円	★★★
・大学への数学 マスター・オブ・整数	東京出版 1095 円	

・大学への数学 解法の探求(特)・(監)・確率	東京出版	1400円/1400円/1300円	
・大学への数学 新数学演習	東京出版	1500円	
・大学への数学 数学ショートプログラム	東京出版	1000円	
・大学への数学 新数学スタンダード演習	東京出版	1500円	
・雑誌 大学への数学	東京出版	1100円	
・鉄緑会 東大数学問題集	角川書店	5800円	★★★★
・東大の文系数学 23年	教学社	2300円	
*SEG 数学シリーズ2 確率ノート	SEG 出版	1500円	
*SEG 数学シリーズ12 図形と方程式	SEG 出版	1900円	
*SEG 数学シリーズ14 数学プロムナード(特)	SEG 出版	1500円	
*SEG 数学シリーズ15 数学プロムナード(監)	SEG 出版	1500円	
*SEG 数学シリーズ16 平面幾何	SEG 出版	2300円	
*闘う50題	SEG 出版	1800円	

国語

・センター試験過去問題集 国語(特)・(監) (青本)	駿台文庫	880円	★★★★
*解決!センター 国語(特)(監)現代文	Z会出版	1000円	
・土屋の古文単語2 2 2	代々木ライブラリー		★★★★★
・望月古典文法講義の実況中継 (上・下)	語学春秋社	970円・1000円	★★★★★
・古文読解教則本〈改訂版〉	駿台文庫	650円	★★★★
・中里の即決古文文法入門	代々木ライブラリー	728円	★★★
・中里の即決古文頻出文法問題	代々木ライブラリー	757円	★★
・土屋の古文公式2 2 2	代々木ライブラリー		★★★
・土屋の古文文法8 8	代々木ライブラリー	854円	★★
・ステップアップノート30 古典文法基礎ドリル	河合出版	700円	★★
・古文上達 読解と演習56	増進会出版社	971円	★★★★
・得点奪取 古文	河合出版	920円	★★★★
・古文読解の新技術	桐原書店	1100円	★★★
・ナビゲート古文 読解へのアプローチ	河合出版	829円	★★★★
・最強の古文 読解と演習50	増進会出版社	971円	★
・らくらくマスター 古典常識	河合出版	800円	★★★
・句形演習 新・漢文の基本ノート	日栄社	300円	★★★★
・漢文道場	増進会出版社	874円	★★★★
・漢文読解の公式	学研	800円	★★★
・頻出現代文重要語700	桐原書店	800円	★★
・現代文のトレーニング (基礎編・記述編)	増進会出版社	971円・1166円	★★★
・得点奪取 現代文	河合出版	1100円	★★★★
(模) 東京大学への国語	駿台文庫	5回分 1238円	
(模) 東大入試ブレ問題集 国語	代々木ライブラリー	6回分 1280円	
(模) 入試攻略問題集 東京大学 国語	河合出版	4回分 1360円	

世界史

・センター試験への道 世界史B	山川出版社	1200 円	★★★★
・センター試験 世界史A・B一問一答	三省堂	950 円	★★★★
・世界史B教科書 (東京書籍)			
・世界史B用語集 (山川出版社)			
・資料集			
・ナビゲーター世界史1～4	山川出版社 全4巻	各 933 円	★★★★★
・ヨコから見る世界史・タテから見る世界史	学研	各 1000 円	★★★★
・世界史Bワークノート	山川出版社	638 円	★★★
・荒巻の世界史の見取り図 (全4巻?)	東進ブックス	各 1000 円前後	★★★
・詳説世界史ノート	山川出版社	714 円	★★★
・書き込み教科書 詳説世界史	山川出版社	762 円	★★★
・入試に出る 世界史B 用語&問題 2000	増進会出版社		★★★★★
・よくでる世界史B一問一答	山川出版社	657 円	★★★★★
・一問一答 世界史B用語問題集	山川出版社	638 円	★★★
・年号暗記			★★★★★
・中谷の世界史論述練習帳	旺文社	1100 円	★★★★
・詳説 世界史論述問題集	山川出版社	857 円	★★★★
・世界史論述のトレーニング	増進会出版社	1000 円	★★★
・攻める世界史 現代史	増進会出版社	1000 円	★★★★
・攻める世界史 テーマ史	増進会出版社	1068 円	★★★
・攻める世界史 各国史	増進会出版社	1068 円	★★★
・世界史テーマ学習80	山川出版社	800 円	★★★★
・テーマ別世界史B	山川出版社	780 円	★★★
・NHK高校講座 世界史			★★★★★
(模) 東京大学への社会	駿台文庫	3 回分 1238 円	
(模) 東大入試ブレ問題集 社会	代々木ライブラリー	6 回分 1280 円	
(模) 入試攻略問題集 東京大学 社会	河合出版	4 回分 1360 円	

地理

・権田地理B講義の実況中継 (上・下)	語学春秋社	980 円・1000 円	★★★★
・地理の完成	山川出版社	790 円	★★★
・みてすぐわかる 新地理	三省堂		★★★★
・データブック オブ ザ ワールド	二宮書店	600 円	★★★★
・資料 地理の研究	帝国書院	857 円	★★★★
・地理用語集	山川出版社	790 円	★★★★★

PART 2：合格体験記 実況中継 ver.

さて僕が実際にどんな勉強をしてきたか？というよりどんな生活を送ってきたか、をだらだらと述べていこう。もちろん有用な情報がたくさんつまっているはずなので、暇つぶしにでもどうぞ。

〔中学生時代〕

英語と数学の勉強がしにくい。主に数理研とSEG（1学年飛び級）に通う。今思えば、英語と数学の基礎がこの3年間で確立したのだろう。中学の間は1年間にやる勉強内容が高校と違い少ないので飛び級のチャンスだ。

〔高1〕

数学が得意科目なために、当然理系だと思い勉強を始める。SEGでも物理・化学の授業を受ける。しかし高校1年生の秋に9・11テロが発生、理系の粋を集めた超高層ビルと最新鋭ジェット機が粉塵の中に崩れ去ってゆく映像の中に理系の終焉を見る。文転（←理由は後付けです）。ここで気付いたのは、理系は文転しやすいが、文系は理転しにくい、ということ。特に文系らしい勉強はせず、高2を迎える。

〔高2 4月～12月〕

4月からZ会で世界史の1学年上の授業（荒巻）を受け始めるも、いかんせん知識がほぼゼロの状態なので詰め込みが追い付かず5月でリタイア。知識がなければどうにもならないことにやっと気付くが、学校では進度と内容が明らかに間に合わないので、どうやって知識を仕入れるのか途方に暮れる。6月から開講する世界史のクラスなど無い、ということで小学校の時お世話になった啓明舎にコンタクトを取り、世界史通史を個人授業で教えてもらう。夏には東大模試を受けるものの、共にD判で、感触をつかむと同時に実力不足を思い知らされる。東大入試は思っていたほど甘くない。しかし3ヶ月間東大向けの勉強に切り替えて勉強したため、11月の模試では河合の東大オープンでB判と1点差のA判（駿台はC判）。

〔高2の終わり〕

2003年に入るが、もちろん受験などまだ遠い先の未来に思える。学校で高2向け校内模試が実施される。期末試験では上位3分の1に入るのがやっとだったので、（30位以内に入れば上出来）と思っているところに結果が返ってくるとなんと学年9位。やるじゃん俺。

〔高3 1学期〕

高3になったという実感がわからない。4月終わりから「短期計画」（1週間ごと）の作成を開始、勉強に本腰を入れる。しかし5月の第1回校内模試でなんと総合1位を取ってしまい調子に乗ることに。（なぜか国語が学年1位だった。模試では平均ぎりぎりなのに）おかげで6月の勉強量は極小。だが6月の第2回校内模試でも総合3位、文系1位と絶好調。またも国語が学年1位、ついに俺の国語力が開花したかと思う。

〔8月〕

夏は受験の天王山である。しかし、しかしということとはだ、そう遊んでしまったのだ。もちろん勉強もある程度はした上で。だがよく言われるように1日10時間とか、狂気のように勉強することはなく、実際その頃の勉強計画を見るとほとんどチェックがついていない。まあ塾の通常授業含め6週間で160時間超の講習を入れたほうが狂気かもしれない（この他に東大模試2コとマーク模試1コ。これでも相当減らした）。講習のない日は友達と3人で代ゼミの自習室に集まり勉強、とみせかけて昼食時・休憩時とゲーセンに行き2時間を浪費。この経験から「勉強は一人でせよ」の格言が生まれる。塾の勉強は大量にこなす一方で自分の勉強がほとんどできず悔いの残るサマーバケーション'03。しかし本人はそれほど焦りを感じていない。（落ちてたらこれが原因だったと思ったんだろうな）

〔9月～10月〕

9月中旬に一念発起してゲーセン断ち。9月半ばに模試の成績が返却される。駿台模試では校内順位が7位（文I内順位97位）、河合模試では校内順位5位（文I内順位90位）で、校内模試並みの成績を期待していたため軽く凹む。開花していたはずの国語力はもう枯れてしまったらしく平均並みだった。10月の第3回校内模試の結果は総合12位、文系4位。相変わらず計画履行率は50%前後。文化祭が近づくにつれ勉強量は単調減少。家ではほとんど勉強せず、模擬店のメニュー作り・試食会準備・ケーキ作りの準備 etc に忙しい。とくに文化祭前1週間は全く勉強しなかった——わけではなく、塾には（遅刻したものの）きちんと通っていた。さすがに文化祭前日は休んだが、どうせ家では勉強しなくなるので、塾には遅刻してでも行って演習を解こう。もちろん文化祭に全てをかけて取り組んだ上で。

〔11月～12月〕

文化祭も無事終了し、残るは受験のみ。みんな目の色が変わるのか、と思いきやそんなことは無く、勉強モードの雰囲気とは言い難い。文化祭直後の土日に河合東大オープン、2週間後に駿台の東大実戦模試。駿台の模試の前1週間はそれまでの人生で一番勉強したと思う。計画履行率90%という驚異の数値を残し、東大実戦は数学3.7完、全国総合順位で10番台（校内1位）。気が抜けて勉強効率が落ちる。ちなみに河合は245点の70番台（校内2位）。数学39点が響く。12月の第4回校内模試では文系5位。やはり敗因は数学。とはいえ、1位を目指している自分がアホらしくなる。本来の目的を見失ってはいけない。受ければ皆同じ。

このころから手洗い・うがいの励行。だまされたと思って毎日やっていたが、実際今年の冬は1度も風邪をひかなかった（毎年必ずひくのに）。恐るべし手洗い・うがい。12月からセンター対策を徐々に開始。曙がボブサップに秒殺されるのを見つつ、2003年は終わった。

ここでちょっと趣を変えて、センター試験についていろいろと。

〔センター模試〕

センター模試は夏に1～2回・直前に2回受ければ十分だろう。もちろん高2から受けても全くかまわない。判定は当てにしない方がよい。仕組みがよくわからないが、D判・E判は当たり前だ。僕も、最後に受けたセンター模試がD判で凹んだ記憶がある。E判だった誰かが「親に、『センターでE判なんかじゃやばいじゃない!』と怒られた」と言っていた。気の毒な限りである。さらにセンター模試は本番より難しく作られているので、点数が悪くてもそれほど悲観する必要はない。

〔センター試験、出願からの流れ〕

出願は10月ごろ。成績開示（翌年5月頃に自分の成績が通知される）についてだが、万一のことを考えて希望しておいた方がよい。どうせ800円しか変わらないし。11月の頭に出願受理通知のはがきが来る。特に記載に誤りがない限り捨ててしまってもかまわない。12月の中旬に学校からセンター試験の受験票が渡される。そのデカさに初めはビビるが、実際の試験時に必要なのは上半分だけである。下半分はファイルにしまっておこう（二次試験出願の際に切り取って電算処理原票に貼り付ける）。受験前に写真を貼っておくのを忘れないように。

〔センター勉強〕

センターをなめてはいけない。なぜか。センター試験の点数が悪いと士気に影響するということの一つだが、それだけではなく、前期試験不合格の後、センター試験の成績が良くないと後期足切り（意外と高い）に遭ってしまうのだ。これは死ぬほど悔しいものらしい。僕は後期試験を受けることができずに涙を吞んだ者を5、6人見てきたが、「後期受けてれば受かったのに」と言いたい人も少なくない。センターを甘く見ていたばかりに、1年間を棒に振ってしまう・・・これはなんとしても避けたい。前期を落ちたからと言って後期で受かるわけがない、と悲観するのも良くないが、同じ浪人でも「後期試験まで受けた結果の浪人」と比べると「後期試験を受けられなかった浪人」はやはり不完全燃焼というか、やり場のない怒りを覚えるしかあるまい。（前期で落ちたとしても焦る必要はない。前期で落ちたなら後期で受かればいいじゃん、くらいの気持ちで。前期試験は数年間にわたる勉強が必要な「知識型試験」だが、後期試験は講習を1つとって数日間勉強して「方法」を理解すれば受かる「方法型試験」である）

そういうこともあって、センター勉強を始める目安としては、11月下旬の駿台東大実戦模試が終わり12月に入るあたりが良いだろう。始まりが遅れるほど点数は単調減少だ。

教科ごとの対策は「教科別勉強法」を参照。

センター対策を進めると同時に、紙に「センターが終わってから二次試験向けにすべきこと」を教科別に書き並べておく。これがセンター試験後に役立った。ふと思い出したときにぱっと走り書きしておけばよい。「まずコンスタントに模試問題集・過去問やらなきゃ・・・そういえば塾のあのテキストの復習も要るかも、国語と社会は模試の復習もしておこう、でも英語と数学の模試の復習は時間があるときでいいや」等、自分の中での優先順位をつけておこう。

さて、実況中継に話を戻して。

〔センター直前期：高3 1月〕

1月に入ってから朝6時起きに切り替える。始めは慣れないが、日の出を見ると気持ちすがすがしい感じ。センター対策として、過去問はもちろん、センターパックをやる。駿台の「青パック」、Z会の「緑パック」、代ゼミの「黄パック」などがある。どれも1000円のはず。ここで耳寄り情報：緑パックのマークシートは本番のマークシートと酷似している。さて、一人でセンターパックを解いていても面白くないという人は、友人みんなで同時に解いて点数を集計すると良い。実際に集まって解く必要はないだろう。メールでみんなの得点を集計すればよい。僕たちは「通信対戦」と呼んでいた。パックものは模試と同じく、無駄に難しく作られている科目がある。ちなみに僕の点数は、青673点・緑717点だった。

センターパックを解く際は、各教科目標点を設定しておくのと良い。僕の場合は

Dead line 「英語 180 数学 180 国語 150 世界史 80（現社 60）地学 85 の総合 675 点」

Target 「英語 195 数学 200 国語 180 世界史 90（現社 60）地学 95 の総合 760 点」

だった。Dead line とは、その点数を下回ったらヤバイ、という点数のこと。さりげなく青パックがDead line を割っているが、本番ならもうちょっと行くだらうと思って気にしなかった。

二次試験の勉強も気になるところだが、とりあえず目先のセンターに全力を注ぎこむ方がよい。僕は直前2週間はほぼセンター勉強しかしなかった。（センター対策がそのまま二次試験対策になるのは、現代文・古漢・世界史である）

〔センター試験当日〕

（1月17日土曜日：1日目）

朝5時に目が覚める。多少の緊張感は否めない。朝食を済ませてから世界史Aの過去問を見て脳を起動させ、7時20分に家を出る。電車には他にもセンター受験生と思われるのがちらほら。試験会場は東京大学駒場キャンパス。キャンパスには何度か足を運んでるし、特に焦るようなことはない。一日目は英語・世界史A・地学IBがある。とりあえず英語は気が抜けないな。地学は過去問で97点まで出たし過去5年分は90点切っていないから、90越えはたぶんいけるはず。つか勝負は国語と数学がある明日だよな。うー寒い。などと考えながら駅を出るともうそこには受験生がうじゃうじゃ。友人たちとだべっているうちに8時10分開門。えっと「112602-****Y」だから11号館2階？ここか…座席は、やった一番右端じゃん。自分の右側に人がいるとなぜか集中力が下がるのだ。鉛筆を5本用意して…消しゴムも3個…時計も出して…時間もあるし英単語でも見とくか。…おお左のコかわいいじゃん！今日はついてるなあ、とリラックスしたところで試験監督から「受験票を持って1度退出してください」との指示。同じ教室にいる友人たちと廊下で少し話し（センターの受験番号はその会場の受験者全員の名前順になっているから、出席番号の近い人が同じ教室になる）、教室に戻ると、今度は受験票の自分の写真の上に透明シールを貼る作業がある。（これは二次試験でも全く同じ流れ）後は普通に英語のマークシート、問題用紙の順に配られる。緑パックのマークシートと酷似していることに気付く。…え？筆箱は机の上に出してちゃいけないのね、はいはい…9時30分に試験開始。東大はサイレンで合図がある。

とまあ英語(9:30-10:50)は何事もなく終わり、世界史(11:35-12:35)もAを選択して良かったと思いながら無事終了。地学の試験は 15:35-16:35 だからだいぶ時間がある。みんなで弁当を食いつつ英語の答え合わせ。なに6で1問落としたのか…2の文法も1問落としたようだ。「devote ～ to study じゃないの?」「ちげーよ、devote ～ to studying だって」がーん。まあいいか、190点確保。みんなも同じくらいとれてるらしい。まずまずのスタート。世界史は? やっぱAで正解だったよなあ。微妙に間違っただけの90点は確保できてそう。Target 越えたか。一安心。ひとしきり騒いで試験場に戻る。もう試験場の雰囲気には慣れた。地学も初見の問題が1問ありきょどったがよく考えればわかる問題じゃん、と思いクリア。試験が終わりみんなと答え合わせもどきをしているときに一人が「あ! 背斜と向斜間違えた!」おいおい間違えねえって、と思った瞬間自分も同じ間違いを犯していることが判明。大ショック。基本じゃん。この調子じゃ他も危ないかな、と思って不安定なまま帰宅、夜に発表される1日目の解答速報が待ちきれない。9時頃にアサヒ・コムにアクセスし、解答を見る(解き終わった際、自分のマークした番号を問題冊子の一番後ろの白紙のページに縦に並べて書いておくと、採点の時に非常に楽である)。すると…英語192点、世界史A96点、地学97点と大健闘。いい感じ。明日国語170取って数学190取れば…745か。来た来た。とりあえず国語で俺の運命は決まる、と思いつつ、現社の過去問を1年分だけ解いて床に就く。

(1月18日日曜日:2日目)

すでに慣れてきたのか緊張感が失せる。ついに国語だ。所詮マーク、正解は一つ。俺の論理力で打ち砕いてやるよ、と開き直りながら試験開始。いつもの通り「国語I」の問題に大きく×をつけてから、論説・物語・古文・漢文と順番にこなしていく。65分で一通り解き、残り15分で微妙に迷う選択肢を吟味する。問題文と首っ引きで照らし合わせ、同値・対比を駆使して、これしかないと言える選択肢を選び出す。ラスト5分でもう一度見直す。もし間違えるとすればこれとこれかな…あとは自信がある…とすると180は来たな、と考えているうちに試験終了。次の数IAは30分強でさくっと終わらせ、昼休み友達と「あれは満点だよな」ということで合意する。しかしその後、数IIBにおいて状況は一転。誘導がわかりにくいベクトルの問題でパラメータ計算がめっちゃくちゃになり、他の問題も相当面倒な計算だったため結局時間が足りなくなって最後の空欄1コは適当にカンで埋める。げろしゃぶ、と思ったが次の休み時間にみんなの話を聞くとやはり相当苦戦していたらしく、中にはベクトルの問題丸ごと捨てた、というのもいて納得。絶対計算ミスしてるだろうな、85点くらいか、と予想。次の現社もなかなか手強く、といっても現社の勉強はみんなに比べて無きに等しいのでそれほど焦るわけでもない。これまでもノー勉で過去問80点は来てたし(最悪65点)。どうせ後期の足切りにしか関係ないし。ということでセンター試験終了。あとは解答速報を見るのみ。7時半前にはアサヒ・コムに解答が出ていた。

さて結果は…もっとも気がかりな国語から見る。すると、……これは…全問正解?! まじで?? もう2度ほど見るが確かに全部同じである。思わず雄叫びをあげそうになる。ついに奇跡が…いやいや当然の結果だな、うん。その勢いで数IAも採点、余裕かな…と思ったら計算ミス発見。ちえ。95点。こわごわ数IIBも見る。と意外に合っている、と

うかミスったのは当て勘でマークした箇所だけで、しかも配点が2点と低く、ラッキーなことに計算ミスもなく（これこそ奇跡）98点だった。現社は…79か、まあ妥当だな。で、これ相当点数いいんじゃない…全部足してみると…778/800（857/900）！！数ⅠAでケアレスミスしなければ783だったのに・・・と一瞬欲が出るが、こんな良い点数がとれたことに感謝。夢のようだ。

〔センター以降～2月4日〕

二次試験の願書を書いて提出。3部もらっていたので書き損じても安心。センターが良すぎたことで気が抜けたのか1週間ほどやる気が出ない。とは言え一応最低限の勉強と講習の予習だけはこなす。24・25日に東進の模試を受け、脳を再起動しようとするが、二次試験向けの力がそれほど落ちていないことに安心しだらけっぱなし。掲示板を見ていると友達もそれほど集中できていないことを知り心強い（←ダメダメ）。いまいち本調子にならないまま25-28、31-3の鉄緑と1-2の駿台現代文、4日の駿台漢文の講習をこなし、これにて6年間の塾ライフは終了。

〔2月5日～2月23日（二次試験前々日）〕

さていよいよ家での引きこもり生活のスタート。1ヶ月ぶりに計画表を作成。

計画表1

7:00-7:30 A F N 7:30-45 英単語① 7:45-8:00 古文単語 8:00-8:15 地理単語①
8:15-8:30 世界史単語1 8:30-45 その他暗記 8:45-9:00 要旨大意演習 9:00-15 英文和訳
復習 9:15-45 鉄緑英語復習 9:45-10:20 駿台現代文復習 10:30-12:30 数学4問セット
2:00-2:15 英単語② 2:15-30 地理単語② 2:30-45 世界史単語 2:45-3:30 古典赤本
3:30-4:00 読解公式 4:00-5:00 中谷論述 5:00-6:00 啓明舎論述復習 6:00-6:30 東進復習
6:30-7:00 鉄緑地理テキスト見直し 8:00-10:30 国語模試

この計画、3日間しか続かずあえなくダウン。8日に東進の模試が返却されたこともあり、計画を立て直す。だいたい、いちいち時間を区切ってるからやる気がそがれるんだよね、うん。

計画表2

7:00-7:30 A F N 英単語①15分、英単語②15分、古文単語15分、要旨大意演習15分、
漢文読解公式30分、古典赤本30分、年号①15分、年号②15分、世界史単語①15分、世
界史単語②15分、地理単語①15分、地理単語②15分、鉄緑地理補充問題30分、{国語模
試150分+数学4問セット100分}または{地歴模試（世界史第1問を除く）90分、英
語模試120分}

時間を厳密に区切らず、やりたいものからやっていく作戦を取る。しかし今度は内容が薄すぎて試験に間に合わないと考え、二次試験受験票が郵送されてきた2月12日に再三計画表を作成。（※受験票が郵送されてくる時は意外と緊張する。もしかしたらマークが薄くて判定されていないんじゃないか…とか不安になる）計画はこれで最後にしようと決め、必要な全てを盛り込み、細心の注意を払って作り上げる。

計画表 3

英単語①15 分、要旨大意演習 15 分、7:00-7:30 A F N、世界史単語①15 分、古文単語 15 分、

{国語模試 150 分} or {赤本古文 3 回分 30 分+赤本漢文 3 回分 30 分+駿台現代文復習 40 分+古文公式 20 分+漢文公式 30 分}、鉄緑数学演習復習 30 分、数学 4 問セット 60 分(正式な解答は作成せず、答えを導くのみにして時間短縮) -食事、休憩- 世界史単語②15 分、英単語②15 分、{英語模試 120 分} or {英文和訳演習復習 30 分+鉄緑英語演習復習 30 分+ライティング 30 分+その他英語 30 分}、年号 20 分、地理単語 30 分、鉄緑地理補充問題(終了後はテキスト見直し) 30 分、{地理模試 60 分} or {鉄緑演習復習 4 問 60 分} -食事- 地名講座 20 分、世界史模試(短答のみ) 20 分、残りで東進復習 or 中谷の世界史 or 資料集、9 時半勉強終了

なお国語の模試がある日は英語の模試をやらないかわりに地理の模試をやるなど、バランスを取った。もちろん全ての予定がこなせるわけではない。その日の終わりに、出来なかった欄は緑のペンで囲み、翌日に時間を切り盛りしてこなす努力をする。それでも無理だったら緑で塗りつぶし計画不履行の印とする。結局試験が終わるまでこの計画表に従ったことになる。2 月 26 日まで全ての欄が埋まったのを見るのはなかなか壮観である。

家で勉強ばかりしていても気が滅入るので、晴れた日はお散歩(マスク着用)。2 月の中旬ともなると空気が暖かくなるので気分転換には最適だ。未開通の広い道路を見つけたので入ってみた。高速道路の料金所に通じるその新しい道路は、標識もまだ白いままで完成していなかったが、1 週間通ってみても工事が進んでいる形跡がない。もちろん人の姿は無く、防音壁でまわりからは見えないため解放感抜群。受験勉強で部屋にこもっている僕にとってのサンクチュアリだった。

毎朝 5 時半に起きていると、日の出の時間が次第に早くなってくるのが分かる。いつも起きてから 5 分くらいぼうっと日の出を眺めていた。朝焼けは見えているうちに刻々と色合いを変えるし、同じ朝焼けは二度とない。金色に輝く太陽を見ると全身にパワーがみなぎるような。

そうこうしているうちに二次試験本番が近づいてくる。2 週間前だったのが 10 日前になり、一週間前になり、5 日前になる。掲示板でもみんなの焦りと緊張の色が次第に濃くなる。

はっきりいって直前期には暗記物しか伸びない。しかもたいして詰め込めるわけでもない。「直前には社会 1 科目を伸ばすことが出来る」と言われているがかなり疑問である。僕としては試験がある前の週の土日に模試をやって欲しいところだった。ずっと家にいると集中力の低下が否めないなので図書館等に行くことを薦めます。塾の自習室は薦めません。友達がいるため勉強しなくなって逆効果だから。メールで我慢しよう。(年が明けてからはケータイを自分の部屋から隔離。みんなも同じらしく、メールしても返信は 6 時間後とかもしばしば。逆に掲示板が大盛況)

〔2 月 24 日 二次試験前日〕

ついに明日かと思うと感慨深い。勉強はほどほどに切り上げて 8 時半に寝る。

〔2月25日 東大二次試験1日目〕

5時起床。再び駒場キャンパスへ。センター受験票も必要なので注意。さすがに二次試験ともなると緊張する。いつもと同じようにやるだけだ、そうすれば受かる、無理することはない、と念仏のように心で唱える。自分は「平常心さ」と思っていたが後で考えると相当緊張していた。8時20分開門。受験番号はA 1 0 3 4 5だから7号館2階の724教室。…校舎ボロっ！！うちの学校並みじゃねーか。しかも3人席の真ん中？一番不利なシチュエーションを持ってくるとは俺を試す気か。

受験者心得には、「試験の開始前であっても、参考書等を見ることは許さない」と書いてあるが、どうせ教室の後ろの方だわかりゃしないさと思い「古文読解教則本」を読み始める。9時になると「センター受験票と二次試験受験票を持って一度退出してください」との指示。待ち時間がかなりあるので、何か参考書を持って出ること。受験票と古文読解教則本を持って退出。さて始めるか、と思ったら廊下の明かりが暗すぎる。蛍光灯の下に移動し何とか読み終わる。教室に入室するとき暖房が暑かったので切ってもらふ。寒い方が集中するし。センター試験と同じく写真の上にシールを貼る作業があり、9時20分過ぎ、国語の解答用紙、問題の順に配られる。解答用紙が東進の模試と同一であることにちょっとびっくり。解答用紙・問題用紙に科類・氏名・受験番号を記入し、9時30分、空襲警報と共に試験開始。

12時、試験終了。しかし解答用紙・問題を回収し終わり、本部に集められてサイレンが鳴るまで席を立ってはいけない。15分くらいかかるが、基本的に問題を提出した後は席に座ってさえいれば何をしていても良い。僕はこっそりと数学の重要問題公式集のプリントを読んでいた。教室の前の方で同じように参考書を読んでいたらしい受験生が注意されている。前に座ってるんだったら目立たないようにやれよ、と思う。そうこうしているうちにサイレンが鳴る。みんなと会い、中庭に行ってランチタイム。古文漢文は難しかったという声は聞かれない。まあ俺が解けたくらいだから簡単だったんだろう。現代文は自信があるが、それはいつものこと。良くもなし、悪くもなし。

13時40分集合。数学が良くなければ受からない、俺は数学でしか受からないんだと自分に言い聞かせ、模試でもあれだけいい点数を取ってきたんだから解けるはずさ、と思う。1問20分でいこう。解答用紙、問題が配られ、14時00分試験開始。解答用紙に分割線を4問とも引く。

1. グラフを書いて、文字でP・Qの座標をおいてみる。計算面倒そう・・・5分ほどさわってから他に移る。

2. 普通に解き下す。すこし面倒。一応解けた。しかし気付いたら開始から30分たってるぞ。でも「1問25分」が普通だから焦ることないか。

3. これは簡単じゃん？しかし論証に手間取り30分くらいかかる。残り40分。

1に戻る。…黙々と計算し、足し引きすればいい感じになる2式を導く。しかし計算が面倒なのは相変わらずで、検算してみると3カ所も間違いが見つかり不安になる。(※今思えば、家ではダイナミックに計算用紙を使っていたが、試験のその時は紙の端の方で計算していた、ということが敗因であろう) 計算ミス直すも新たなミスが見つかり軽く絶望感を覚える。気を取り直して計算を進め、理論上答えになる数値を導き出す。しかしその値はキングオブ2重根号という感じで本格的に絶望。しかも残り10分。

4. (1)は瞬殺。(2)は… p_{2k+1} ? 面倒そう…。残り5分。

2と3を見直すが間違いは特に見つからず、4(2)が白紙のまま試験終了。

解答用紙回収の間に予想点数を出す。(1は解法が合ってると思うけど…違う解法があるのかな…計算能力を試す問題か? まあ6~12点としておこう。2はたぶん合ってる。もしかしたら引かれてるかも。15~20点。3も合ってるだろう。でも論証がちょっと甘いかな…15~20点。4は(1)だけか…6~8点。とすると…良くて60、悪くて40。他の科目で失敗しなければいいけど…。今年は難化か…「できなかった」部類に入るな、これは)駿台では72点だったので落差が激しいのがショック。

しかし。終わって駅に向かう途中、もっとショックなことを聞かされる。

「1番5分の18だよな?」「いや。計算が死んだ。(解けてねえつつの)」

「4番が一番簡単だったよね?」ウソだろ。「(1)だけ解いて(2)捨てたよ」

ちょっと焦って友達の話聞く。「難易度は去年と同じくらいじゃん」だと。おいおい去年の過去問は3完半なのに…。しかも、

「3でさあ、全ての解が異なることを示した?」「……」示していないつつの!

2は合ってるだろう。答え合わせしよ。「2で場合分けしたよね?」「したよ」よしよし。

「いくつで切った?」「2分の1と…」よし。確か2分の1と1で切ったんだよな。「…5分の1」

がーん。ほかの友人にも聞いてみてもらいたい同じ。・・・0完?

$$10 + 12 + 12 + 6 = 40$$

これで受かるのか?

今考えてみると「40点取りゃ受かるのに何言ってるんだ」という感じだが、その時は本気で凹んでいた。家に帰って模試の成績を見比べ、「河合で数学39のA判とったから大丈夫…いや駿台で数学72で総合264だから数学40なら232か…今年の予想合格点は270だろ?…でも全国15位の俺が落ちるか?…模試で上位にいても落ちるやつはいる…いや、でも世界史・地理・英語をいつも通りやれば受かるはずだ」という結論に達しつつ就寝。

〔2月26日 東大二次試験2日目〕

5時半起床。前日の数学ショックを引きずらないよう、ケータイの壁紙を変え、3日前に落とした「落雀」なるゲームを削除し、持って行く時計を別のものにし、シャーペンも変えてみる。まあなんでもいいから気分を変えれば良い。2日目はハサミを忘れずに。ショックを引きずるところか逆にすっきりした気分になって試験場到着。俺は案外楽天主家かも知れない。

8時30分開門。席に着いてから地理の一問一答カードを2冊チェックし、世界史短論述集のプリントアウトを廊下で読み尽くす。教室内ではリスニング用放送機器のチェックが行われている。入室してから問題・解答用紙が配布され、いつもと同様に科類・氏名・受験番号・解答する科目名を記入してから、解答科目欄をハサミで切り取る。サイレンでいざスタート。

世界史は第2問から・・・さあバリバリいくぞ、と思って見るとなんと短答問題が消えて3個の中論述になってるじゃん。やれやれ。第3問からだな。ノンストップで第3問を

こなし、さて第2問に行くか地理に行くか。第2問の問題を拝見・・・なんだ3題とも基本テーマじゃないっすか。でも連問は気をつけろと荒巻が言ってたな、と思うものの普通に解答をつくる。基本テーマって書きにくいよな、差がつかないし・・・試験開始から25分経過したので(1)だけ仕上げ、(2)(3)は半答のまま地理に。ちらっと世界史第1問の1行目だけ見ると「プラザ合意」という言葉が目に入る。(現代史?! もっとやっておけば良かったあ〜) と思いながら地理に突入。時間が厳しくなることを予想し、下手に考えず条件反射的に手を動かしていくことを決意。幸い第2問後半以外は典型テーマばかり。ばりばりこなす。ラストは「歴史的に利用されてきた自然エネルギーの例を2つ挙げよ」でなぜか「温泉」しか浮かばない。なんとか「水車」は思いつくが「温泉」に代わる良案が思い浮かばず地理終了。終わって見たら試験開始から80分しか経っていない。つまり5分で地理を仕上げたということ。最速記録だ。10分間で世界史第2問を終わらせ、残り1時間をたっぷり第1問に使えることに。(現代史全然やってないよ) と思いながら問題文を読むと、なんだ、「16世紀から18世紀における銀を中心とする世界経済の一体化の流れを概観せよ」だって。来た。今朝見たばかりのテーマ「16世紀における国際分業体制の成立」がまんま使えるじゃん! HAHAAHAHA!! 指定語句もOKだな・・・苦心しながら解答を16行に納める。ちょっとバランスが悪くなったがまあ許容範囲だろう。10分くらい余り、地理の見直しをして試験終了。

昨日とは違うメンバーで弁当を食い終わる。飛び交う関西弁を聞いて地方出身者の存在を感じながら教室に戻り、さあ最後の科目だ。国語・数学・世界史・地理と大きな易化も難化も無いから、英語で決まるはず。14時00分戦闘開始。

内容は「教科別勉強法」の「英語」にも書いてあるが再掲。「1A→4B→5をリスニング前に終わらせ、リスニング後に4A・2をこなし、1Bをラスト15分で仕上げる」作戦で試験に臨んだが、1Aを終わらせた後、ぱっと見た感じ1Bの問題数が減っている上に文章もそう難しくはなさそうだったため作戦変更、4Bをクリアした後1Bを仕上げ、リスニング前に4Aまで解ききる。リスニングも簡単。4Aの解けなかった問題をを少しだけ考えた後5に行く。斜体は読みにくい・・・ていうかこれ世界史の知識じゃん。わざわざ読んで損した。問題数も多めで、25分使って解き終わる。残るは英作のみ。15分で書き終わり、残り5分で見直し。サイレンが鳴り始めると同時に、現在完了形なのに have continue と書いていることに気付く。「鉛筆を置いてください」の声を聞きながらdを書き加える。そして試験終了。

ほっとしつつも後期対策をしなければと思う。後期の赤本は事前におこう。

〔2月27日～3月9日〕

数学ができなかった不安からとりあえず赤本を解き始め、3月4日から6日までの駿台の後期向け講習「論文Ⅰ」と「論文Ⅱ(文Ⅱ)」を申し込む。後期は論文Ⅰ(文系共通、大問1題150分)と論文Ⅱ(各科類で問題が異なる、大問2題150分)に分かれる。論文Ⅰは英語の長文を読んで設問に答える形式。(1)(2)は該当する段落を見つけて訳すだけでOK。(3)は「自分の意見を述べよ」という問題だが実は自分の意見など無くても解けるといふもの。詳しくは駿台で今野雅方氏の「論文Ⅰ」を取って下さい。論文Ⅱは、文Ⅱの場合1番が論説文の内容要約問題、2番は経済チックな計算問題。数学ができる人は後期文

Ⅱがオススメ。計算問題とはいえレベルはセンターと二次の中間程度なので。後期試験について言えることは、(文Ⅲであっても)受験生に要求されているのは論理力であって、文章力は次の次だ、ということ。ちなみに後期試験の会場は本郷なので注意。

みんな考えていることは同じらしく、講習に行くと友人5人に会う。講習を受けた後、「たとえ前期で落ちてても後期で受かる」自信が生まれる。赤本は3年分しかやらず、受験勉強中は読めなかった様々な本を読む。そうこうしているうちに発表の日が近づいてくる。

ちなみに学校の卒業式が3月の頭にあったが、結構な人数が同じ大学に行くことになるので特別な感慨はない。

〔3月10日 発表〕

朝4時に目が覚めた。

再び床に就くも30分おきに目が覚める。二次試験当日よりもはるかに緊張しているのがわかる。心拍数上昇。朝食ものどを通りにくい。「朝食 食えなくて超ショック」などと考えてみるがまったくリラックスできない。

受かっているのか？

落ちているのか？

考えても仕方がないことだが、1分おきに頭をよぎる。10時45分に友達8人と御茶ノ水駅改札出口に集まる約束をしていたために9時半頃家を出た。電車の中で腹を決める。どっちにしろ、もう結果は決定してるんだ。後は受け入れるだけ。

みんなも心なしに緊張した顔立ちである。駅前のロッセリアで騒ぎながら発表時間を待つ。(学校側は午後1時発表としているが、実際には12時20分くらいに掲示されたいい)12時30分を過ぎて重い腰を上げ、本郷キャンパスに向けて歩き出す。春の日差しが暖かい・・・大通りを30分ほどゆっくり歩くと、ついに赤門が見えてきた。しかし赤門からは次々と人が吐き出されていて入りにくそうだったので、さらに歩いて正門から入る。

中に入って100mほど歩く。

合格の喜びを表している者もいれば、落ちているのか放心状態の者もいる。

みんなも無言。

角を曲がると人混みが見えてきた。

20m先に、俺の運命が書いてある。

1歩ごとに人波に近づく。

ついに文字の書いてある掲示板が目に入ってきた。左端が文科Ⅰ類だ。

A1万番台の番号が並んでいる。A10345を探す。

・・・あった。

自分の番号が目飛び込んできて、僕は天に向かって無意識に両手を突き上げた。

2004年3月10日午後1時10分、僕の受験勉強は、終わった。

〔エピソード〕

合格するといろいろ忙しい。特に書類の手続きが。生協だったり学生保険だったり・・・合格者は受験番号とは違う「整理番号」(名前順)を与えられる。これは発表当日に郵送されてくるレタックスに書いてある。忘れてはいけないのが健康診断だ。文Ⅰ合格者の男子は3月17日8時15分に本郷キャンパス安田講堂前に集合させられた。健康診断自体はなにも問題はない。ただ採血の所で顔を真っ白くしてぶっ倒れている者が約2名。まあ僕も血が苦手なので倒れていても不思議ではなかったが。で問題はその後。さあ検査終了、帰るかと思って一歩外に出るともうそこは戦場だった。サークルの勧誘がもの凄い。どのくらい凄いかというと、腕をつかんだり服をつかんだりは当たり前。テント下の椅子に座ったら最後、君はもうサークルの餌食だ。そして怒濤のビラ攻撃。「○○に興味ありませんかー?」「無いでーす!通してください」「××やってみない?」「ねえ5分だけ話聞いてよ」「いや1秒も惜しいんで」「君背高いね是非ラグビー部に」「急いでるからいいっす」「ちょっと疲れたよね座らない?」「マジ通して」「こっちは来なよ」うるさい。「いや俺約束があるんで」敵もさる者。「約束?何時からあ?」心電図検査の時計表示が10時37分だったことを思い出す。「11時からっす」「11時?もう過ぎてるって・・・」勝った。相手も、しまった、という顔をする。しかしまだまだ人の壁は続く。ビラ多すぎ。「ビラだけでいいからもらってー」というのはまだいいがほとんどは何も言わずにビラを手にもねじ込んでゆく。「ビラもらってー」「もう持てないからダメ」「いや□□に入ればモテる!」もうめっちゃくちゃである。押し問答を続けた上やっとな解放された。ビラの山だけが残る。

ふと気付くと、合格発表の時と同じ場所に来ていた。もう板を撤去するのだろうか、トラックが1台止まっている。さっきまでの喧騒が嘘のように、人っ子一人いない。ただ柔らかな春の光が降り注いでいる。50mほど続く掲示板の前に一人立ち、ひと息ついて、改めて自分の番号を見上げた。A10345。1週間前は人が山のようにいたので、こうしてじっくり見ることはできなかった。やはり自分の番号があるのは嬉しい。合格を噛みしめた僕は微笑みながら頷き、思い出した。1週間前にし忘れていたこと。やおらケータイを出し、自分の番号を真ん中に、シャッターを切る。乾いた音と共に、6年間の生活に幕が下りた。

〔補足1〕

参考書・問題集・辞書・テキスト・ノート類を全て積み重ねると7mの高さになることが判明。そのうち3.5m分を古紙回収、2.5m分をBOOK OFFに。3500円也。残り1m分は保存。

〔補足2〕

前期試験終了後に駿台で取った「論文Ⅰ」の今野雅方氏に紹介された、<http://globe-npo.org/>の便覧・E1(pdfファイル)を読むと良い。小論文にとどまらず、大学に入ってからレポート作成にも役立つ。この講座は僕の受験生活と大学生活の橋渡し役を果たした。

PART 3：受験にまつわるエトセトラ

実際に僕がどのような受験勉強をしてきたかは、PART 1・2でだいたい述べてきたと思います。PART 3では受験にまつわるエトセトラを。

〔飛び級について〕

塾ってどこがいいの？

自分に合うと感じる塾を選ぶのが一番。とはいえそれが難しいのだが。基本的に友達がたくさんいる塾はやめた方がよい。友達は学校で十分である。勉強というものは一人でしかできないものだから。でも行きたい塾に友達がいっぱいいるという場合は？飛び級すればよい。やるなら中学生のうちだ。中学生の間ならば、1年違っても総勉強量の差はほとんど無い。受験が意識されていないため、1年間で学ぶ勉強量が少ないからだ。中学生のうちにちょこっと勉強して1年上の生徒との勉強レベルを合わせておけば、高校1・2年（＝中3・高1）で本格的に始まる受験勉強にも同じペースでついて行ける。高校生から飛び級を始めるのは中学生から始めるのと比べて難しいが、やってみる価値は十分にある。「飛び級」が敬遠されるわけ。

・「友達がいるのに一人だけ飛び級するのはちょっと・・・」

だからさあ、友達となあなあで塾に通うのはやめろって。どうしてもと言うのなら親しい友人を誘えばよい。僕の場合、誘ったわけではなかったがもう1人SEGで同じように飛び級している友人（04年文I現役合格）がいた。

・「そもそも塾が飛び級を許していないんだけど・・・」

やめて別の塾に行こう。

・「ついていけないじゃ・・・」

飛び級の効果があるのは、現行の学年内で「まあまあできる」以上の人だと思う。飛び級したら、最上位クラスに向けて努力しよう。「あいつ飛び級してんの」にクラス下なんだって」などと言われたのでは元も子もない。せめて下位クラスには入らないように。現行学年内で成績がよい方ならば、1コ上の授業についていけなくなることは絶対にない。もしそうだとしたら、その人は現行学年にいたとしてもついていけなくなるだろう。

・「勉強キャラだって言われたくない・・・」

キャラなんていくらだって作れるのだから気にしない。

ということで「飛び級」をしない理由が見つからない。

デメリットとして、高2で東大の過去問を解くことが多くなる（周囲は高3）ため、高3で改めて同じ過去問を解かされることがある。メリットは改めて書くまでもないが、1つは、現行学年に戻ったときに上位に食い込めるというもの。もう1つ、大きな自信がつく。さらに、1年上にいると、受験の空気を1年先に体験することになって精神的に磨か

れる。その他いろいろ。同学年のみんなよりも多くの経験を得られる。とにかく、先んずれば人を制す。

〔講習について〕

たくさん取れば良い・・・ものではないと思う。僕の場合：

中2 春	数理研3 K会1 大数ゼミ1	英語1 数学4	
夏	SEG3 数理研2	数学4 + 速読1	
冬	SEG1 数理研1 大数ゼミ1	数学3	
中3 春	SEG2 数理研1	英語1 数学2	
夏	SEG5 数理研3	英語3 数学5	
冬	SEG2 数理研1	英語1 数学2	
高1 春	SEG4 数理研2	英語1 数学3	物理1 化学1
夏	SEG7 数理研2	英語2 数学3 古文1 物理2 化学1	←文転。
冬	SEG2 数理研2	英語1 数学3	
高2 春	SEG3 数理研1 Z会1	英語1 数学3 国語1	世界史1
夏	SEG6	英語3 数学2 国語1	
冬	SEG3 駿台2 啓明舎1 WISE1	英語2 数学2 現1 古漢1 地理1	
高3 春	鉄緑4 東進1 WISE2	英語3 数学1 現1 古漢1 世界史1	
夏	鉄緑1 駿台4 東進1 啓明舎1 WISE1	英語1 数学1 現2 古漢1 世界史2 地理1	
冬	駿台3 東進1	古文2 世界史2	

こうやって並べてみると講習は成績のバロメーターかもしれない。ちょっと取りすぎですね。あと、朝・昼・夜と講習を入れるのは一見効率的のようだが、復習もできない上に尻が痛くなるのでやめた方がよい。

〔合格のための18カ条〕

受験勉強の中で学んだ教訓めいたものをいくつか。人によっては合わないものもあると思うのでそのへん適当に。

1. 得意科目を伸ばすより、不得意科目を消せ。

これは絶対。例えば80点を100点にするのと50点を70点にするのでは、同じ20点でも明らかに後者の方が時間も労力も少なく済む。不得意科目の見極め方については後述。

2. 戦略を立てよ。

模試の結果を見て戦略 strategy を立てよう。これは長期的な視点で、自分の不得意科目や得意科目、特性を見極めて作戦を練るということ。これは毎日考えても良い。初めはやりにくいかも知れないが何度も模試を受けているうちに慣れてくる。意外と楽しい作業である。

3. 計画は全てに勝る。

計画は上述の strategy (=長期) の他に tactics (=短期) が重要となる。基本的に 1 週間単位にするのがよい。僕は B 5 版の紙を 7 等分して、月曜日から日曜日まで、それぞれ何時から何時までが勉強時間に当てられるか、予定を考えた上で勉強内容を決めていった。ただ、この短期計画が全て履行できたことは 1 度もない。できなくても計画を立てることが有効なのだ。「来週こそ全部できるかなあ」と思うがやっぱり水曜日くらいから・・・な結果になる。1 つだけポイントは、毎日やる作業を決める、ということ。英単語 15 分、ラジオ 15 分、古文単語 15 分 etc. タイマーで時間を計ってクリアする。これだけは守った。

4. 国語は「現代文」と「古漢」に分離せよ。

この 2 つは同じ国語でも全く別物。現代文はみなできないが古漢はみなできる。

5. 社会では「世界史と地理」の組み合わせが無駄がない。

教科別勉強法の「世界史」の項で既述。

6. 「英・数・古漢」と「現・世・地」に分けて意識しよう。

すなわち「メイン教科」と「サブ教科」。メイン教科が強ければサブ教科が弱くても合格圏内に入れる。

7. 受験は情報戦である。

受験に関する情報はいろいろある（たとえばこの冊子）。そして情報を得た者が受験を制すのだ。実際僕も情報倉庫のようになって、みんなから塾や問題集のことなどいろいろ相談を受けた。悪い言い方だが、受験マニアになれば良い。でもガセ情報には気をつけよう。自分も、ウソの情報を他人に流さないように。信用度が落ちます。

8. 勉強は一人でするもの、受験はみんなでするもの。

「合格体験記」にも書いたが、友達と一緒に勉強しない方が良い。互いに良い影響はない。まして彼女なんかと勉強などした日には勉強にならないこと請け合い。勉強は孤独に一人でやるものだが、受験は友達みんなで一丸となってやるものである。理Ⅲ受験生同士などは相当確執があるらしいが、文系にそのようなごたごたは無意味な物だ。みんなと一緒に受験を戦って、みんなと一緒に受ければ言うこと無いのだ。仲の良い友人たちと掲示板を作ってみても良い。僕たちの掲示板は文理関係なく、東大志望でない者や大検で大学受験をする者など多様なメンバーから成っており、始めは期末試験対策の掲示板だったが、自然に大学受験対策になっていった。今も使ってます。

9. 先んずれば人を制す。

これは受験に限らないと思う。

10. 模試は高 2 の時から受けられるだけ受ける。そして結果をしゃぶりつくせ。

模試はいわば「鏡」である。自分の良いところも、悪いところも、等しく映し出す。模試を受けずに試験に臨むことは、寝ぐせ頭のすっぴんで街を歩くのと同じだ。と模試の重要性を友人に力説するごとに、「そんなに受けてもしょう

が無くない？2回くらい受ければ十分だよ、だって金と時間の無駄じゃん」的な反応が返ってくるのだが、**絶対にそんなことはない**。模試は受ければ受けるほどよい。なぜなら、受けるたびに自分の欠点・改良すべきところが見つかり、その度ごとに改善の努力を迫られることに加え、模試に向けて勉強することは同時に本番に向けての勉強となるからだ。さらに模試の結果は自分の現在の勉強状況の客観的切り口を表す。立体の形を断面図からとらえるとき、断面の数が多い方がより鮮明にその姿を思い浮かべることができるのと同じだ。模試と本番で異なると言えるのは、「現代文の採点（模試よりも甘めらしい：でなければあれほど合格者平均点は高くない）・世界史第1問（模試の問題はお話にならない：荒巻をとればわかる）」くらいか。あと数学の採点も若干甘めらしい。

模試を受けるのは早ければ早いほどよいが、高2の夏から駿台・河合の東大模試を受けるのが实际的だろう。僕は高2の時にSEGに置いてあったチラシを見て模試を受けようと思った（SEGで申し込むと、割引料金で、かつ2日かかるところを1日で受けられる）。当時は模試の重要性をそれほど意識していなかったが、今考えると本当に受けていて良かったと思う。高2の8月の段階で、まず東大独特の解答方式（社会の解答様式・ハサミで解答科目欄を切り取るetc.）を初めて知り、いわば「免疫」ができた。さらに東大の問題傾向・様式（440点満点・数学は4問80点・英語はリスニングが30点分ある・国語は現代文2題古文漢文1題ずつetc.）などにも初めて向かい合うことで、11月の第2回模試に向け、それまでのオールラウンドな勉強法から、東大に特化した勉強法に切り替えることができた。

各予備校の模試の特徴を述べると、駿台・河合は大差ない。河合の方が古漢が簡単、というくらい。河合はZ会とタッグを組んで「フォローアップ添削」（出来が悪かった科目の類題（相手から指示される）を解いて送ると添削されて返ってくる）なるものを実施しているが、僕は1度も使ったことがない。面倒だし。代ゼミの模試は問題はいいのだが、いかんせん母集団が少なく、母集団が少ないと正確な結果が出るとは言い難いので、無理に受けなくても良い。さらにダークホースだが東進の模試がポイントである。東進の「東大本番レベル模試」は、センター試験直後に2日間行われ、2週間でスピード返却される。もちろん母集団も少なく、順位表も出ず、自分の偏差値はおろか全体の平均点も出ないのだが、これらの欠点を補って余りあるポイントが2つある。1つはセンター試験後になまった頭を二次試験向けに切り換える踏切板になるということ、もう1つは、これが最も重要なのだが、本番と全く同一の解答用紙が使われている、ということだ。これは非常に大きい。駿台も河合もある程度は本番に似せた解答用紙を使用しているが、東進のはそんなもんじゃない。全く同じなのだ。紙の大きさ、紙質、解答欄のレイアウト、インクの色・濃さに至るまで。数学では表と裏で解答用紙の上下が異なるということを知ってますか？

だから本番で1日目の1時間目、国語の解答用紙が配られたときには、驚くと同時に、東進の模試を受けて良かった、と本気で思った。

さて模試が返却されたら、次にやるべきことは「結果の分析」である。これは総合結果が良からうが悪からうが絶対にすべきこと。過去に対して目をつぶるものは、未来に対しても盲目である（ヴァイツゼッカー）。ではどんな分析をすればよいか？方法は多々あるが、順に紹介しよう。ちなみに判定などというものを当てにしてはいけない。B判定とD判定の間に大差はない。A判定か、E判定か、それ以外か、の3種類だけと思おう。

まず各科目の偏差値を見て、最も低い科目から順に2つ、マーカーでチェックしよう。さらに偏差値50を切っている科目にもチェックする。それらの科目が、現時点における自分の「不得意科目」である。さらに、同じ予備校の前回の模試と比較して偏差値が下がっている科目は「危険科目」として同様にチェックする。僕の成績を例に取ると、以下のようになる。

〈偏差値〉

	英語	数学	国語	3教科合計	世史	地理	5教科総合
河合8月	51	58	<u>46</u>	53	<u>33</u>	<u>47</u>	<u>48</u> : D
駿台8月	57	54	<u>43</u>	53	<u>39</u>	<u>46</u>	<u>48</u> : D
河合11月	60	65	56	64	<u>42</u>	<u>46</u>	60 : A
駿台11月	<u>56</u>	58	57	59	<u>33</u>	<u>52</u>	53 : C
駿台2月	62	70	62	81 : A	-	-	-
河合8月	<u>59</u>	82	<u>41</u>	62	64	66	66 : A
駿台8月	66	74	<u>52</u>	70	60	<u>48</u>	67 : A
河合11月	70	66	<u>53</u>	67	<u>52</u>	63	67 : A
駿台11月	71	91	<u>53</u>	79	64	<u>50</u>	75 : A

〈得点〉

	英語	数学	古漢	現文	3教科	世史	地理	5教科総合
河合8月	53	41	<u>26</u>	28	148	<u>1</u>	<u>16</u>	<u>165</u> : D
駿台8月	70	26	<u>22</u>	15	133	<u>14</u>	<u>17</u>	<u>164</u> : D
河合11月	65	54	40	27	186	<u>15</u>	<u>25</u>	226 : A
駿台11月	<u>70</u>	41	23	37	171	<u>13</u>	<u>22</u>	206 : C
駿台2月	139	131	52	58	380 : A	-	-	-
河合8月	<u>65</u>	47	<u>28</u>	18	158	37	35	230 : A
駿台8月	79	60	25	<u>19</u>	183	37	<u>21</u>	241 : A
河合11月	93	39	<u>33</u>	28	193	<u>20</u>	32	245 : A
駿台11月	79	72	<u>16</u>	27	194	48	<u>22</u>	264 : A
東進1月	79	63	42	26	210	<u>26</u>	40	276 : A

「現・世・地」よりも「英・数・古漢」を優先させよう。「英・数・古漢」が良ければ、現代文・世界史・地理が弱くても合格圏内に入れる。逆はない。

そして最後。ターゲットを定める。点数よりも偏差値で、各教科ごとに具体的数値を設定しよう。最終的には全科目で均等に偏差値60以上とれるようになるのが理想。

※ 模試は学校申し込みすると安くなるが、多少高くても個人申し込みの方がよい。学校申し込みをすると周り中クラスメートになって緊張感のかけらもない。学校申し込みにして会場を（みんなのいなそうな）自宅近くにするというのも一つの手ではある。あと、後述のように、大手予備校に通えば割引料金で受験できる上みんなとは別の教室で受けられるため良い。

1 1. 鶏口となるも牛後となるなかれ。

有名塾で最上位クラスに入れないならば、中小塾でトップクラスにいる方がましである。精神的にも。

1 2. 大海を知る井の中の蛙になれ。

↑と矛盾するようにも思えるが、大手予備校（駿台・河合・代ゼミのどれか）に所属して通常授業を受講すると良い。大手ならではの情報が多く手に入り、自習室も利用できる。さらに模試が安く受けられる。それだけではなく、周囲が皆東大受験生という中でずっと東大オンリーの勉強をしてきたために頭が凝り固まり視野狭窄に陥っている自分を、多種多様な集団の中で相対化して眺められる、という点に大手予備校の利点がある。僕は駿台で現代文を取っていた。

1 3. 上を見たらきりが無い。下を見てもきりが無い。ならば上を。

上を見たらきりが無い。たとえ模試で全国1位をとったとしても、「満点」という「上」がある。まだまだ。下を見てもきりが無い。どの科目にも「0点」がいる。どうせだったら、上を目指そう。東大だろうが何だろうが、所詮高校の教育課程の中からしか出題できないのだ。高校の教育を受けてきたんだったら、理論上満点を取れるはずなのだから。

1 4. 「試験当日 38 度の熱が出て受かる」ことを目標に。

目標に持つことが重要だ。これは必ず本番での自信につながる。「俺は 38 度の熱があっても受かるくらいの勉強をしてきたんだ」と。いずれにせよ本番では実力の 70%しか発揮できない。

1 5. 最後にものを言うのは「自信」。俺が受からないで、誰が受かる。

そのまんまです。もちろん根拠の無い自信は無意味。

1 6. 落ちた後のことは落ちてから考えよ。

発表前に落ちたことを考えて一人で凹んでいるのはちょっと。落ちてから考えれば十分。とは言え、考えたくないのは仕方がないか。

1 7. 勉強している限り絶対に成績は上がっていく。問題は効率。

そのまんまです。効率とはつまり、志望校に向けた的確な勉強法をしている

か、ということ。わかりやすい例で言えば、世界史で、東大受けるのに私大向けの頻度数低い単語を覚えても無駄、とか。

18. 無駄だと思った塾はさっさとやめよう。

無駄だと思っているのに通い続けることこそ金と時間をもったいない。さっさと見切りをつけよう。これが合格と不合格の分かれ道である。ちなみに「ここに通っていても受からない塾」というのはあっても「ここに通っていれば受かる塾」というのは存在しない。おそらく塾については無数の情報交換が受験生同士、受験生の親同士で行われていると思うが、どこの塾に通おうが結局は本人次第、という（ありきたりな）結論が待ち受けているだけである。だからこそ、「自分が通っていても受からない塾」を見極めることが大切なのだ。

PART 4：勉強って、何？

これまで長きにわたって合格体験記もどき、もしくは合格ハウツー本もどきのことを偉そうに述べてきましたが、市販の「合格体験記」や「ハウツー本」に欠けているものをここで補いたと思います。これは僕の私見ですので、読み流してくだされば結構です。

*

*

*

勉強とは何だろうか。そしてなぜ今勉強しているんだろうか。もしくはなぜ今勉強しなければならないのだろうか。僕は高3の4月から鉄緑会という塾に本格的に通い始めた。上に挙げたような問いが生まれたのはちょうどその頃だった。そして、その時から受験が終わるまでずっと、僕はこの問いを自問自答し続けてきた。答えを述べる前に、なぜこの問いが生まれてきたのかを述べてみたい。

*

*

*

鉄緑会は、中高一貫の進学校の生徒を対象に、東大受験専門塾を銘打って創立された塾である。講師陣は全員東大生（主に文Ⅰ・理Ⅲ出身）であり、実際、毎年理Ⅲを始め多くの東大合格者を輩出し、隠れた名門塾として最近では週刊誌にも取り上げられている。まさに鉄緑会は「東大合格のためのハウツー」を6年間かけて教える塾であり、ここに通っていて東大に落ちるといのは正直考えられない。だが。

鉄緑会（以下T会）は高2までは絶対に行ってはいけない塾である。上の文章を読んで、子息を中1から鉄緑会に通わせなくなった保護者の方がいらっしゃるかも知れないが、それはあまりに短絡的な思考である。お子さんが東大に受ければそれでいいのですか？もし「東大合格」だけが目標であるならば、僕は子供をT会に通わせることに何らためらいを覚えないだろう。しかしそれはあまりに子供がかわいそうである。別に、体罰とか、イジメとか、そういう種のことを言っているのではない。

僕は高2の1月にT会に入塾した。始めに気付いたのは監視カメラの存在だった。T会内には至る所に監視カメラがある。教室内はもちろん、廊下、階段等、死角になる場所はない。もしかしたらトイレにもあるかもしれない。友人たちに聞いても、彼らはすでにその存在に慣れてしまっているのか、どうでも良さそうな返事しかない。というか、彼らもその映像を誰が見ているのか知らなかったのだ。だが聞いていくと、全ての映像は「カメラキリ」なる講師が把握している、という噂がもっとも多かった。この講師、僕も3度しか見たことがないのだが、背が低く甲高い声で大阪弁をまくしたて、何かというときすぐ「反省文」を生徒に要求するのである¹。初めその話を聞いたとき、僕は思わず笑ってしまった。反省文？小学生レベルだよな、と。だがそれは事実だった。教室でジュースを飲んだと言っただけで反省文、ガムを食べたと言っただけで反省文、授業と関係のない本を読んだと言っただけで反省文・・・話はいくらでもあった。だが彼はそれだけではない。他の講師が授業をしているところにずかずかと入り込んでいき、何か「問題行動」をしている生徒（ケータイを

¹ この講師は2008年に鉄緑会を解雇された。

机の上に出している、ペットボトルを机の上に出している、休憩時間に飲食をしているetc)のところに行って説教を垂れたあげく（授業中、です）最後に相手の学校名・名前を聞き反省文を要求するのだ。どの友人に聞いても同じ話である。

「そんなもん無視すればいいじゃん」

僕は友人の一人に言った。が、彼はさらに、

「反省文を出さないとあいつのブラックリストに載るんだよ」

「ブラックリスト？何それ？」

「なんか奴がコンピューターで管理してる名前リストがあるんだって」

「載るとどうなるの？」

彼は肩をすくめた。

「さあ。良いクラスに入れなくなるらしいけど」

良いクラスとは、講師の質が良いクラス、ということである。この塾おかしいよ、俺ら高3だぜ。彼はちょっと寂しげな顔で、でも俺慣れてるし、と言ってちらっと周囲を気にした。

やれやれ。誰も告げ口しないってば。

しかし、これはプロローグに過ぎなかった。

まず「家庭当て報告書」というのが保護者の名前で家に郵送されてくる。これには授業日の下に出欠席が○と×で、遅刻した場合は数字で分数が示されており、さらに確認テストの成績とクラス平均点、宿題をやってきたかどうかなどが事細かに記され、最後に担当講師のコメントなどが書いてある。これの言いたいことはただ一つ、「私たちは、授業料を払っていらっしゃるお父様お母様のご要望にお応えして、お子様をきちんと管理していますよ」ということである。もちろんこのシステムは、子供がきちんと勉強させられているかどうかの状況を逐一知りたがっている保護者に大歓迎されている。マークシートで出欠席を自己申告するようなSEGとはレベルが違うのである。

さらにこの塾には禁止事項がやたら多い。曰く、休み時間にコンビニに行っては行けない、生徒は下りエレベーターを使用してはいけない（運悪くカマキリに見つかってしまった者は反省文を要求される）、2階の男子トイレは講師専用で生徒が使用してはいけない（見つかったら反省文、1階で授業がある場合にはわざわざ4階の男子トイレまで行く必要がある）等、SEGに4年間いた僕は「自由は失って始めて有難みが分かるのだ」としみじみ思った。

T会の最大の特徴は、「勉強の強制」である。高3になると演習形式になるため宿題はやらなくても良くなる（教師による。相変わらず宿題を課す講師も少なくない）ものの、高2までは多くの宿題が課せられ、ノートの作り方（問題文をコピーして切ったり貼ったり等、勉強時間の無駄以外の何物でもない）まで指示される（そんなもの自分でできる、ということで僕は、高2の1～3月は自分が必要だと思う宿題だけやってあとは無視していた）。つまりT会は「生徒は放っておいたら勉強しない」という受験生性悪説に立っているのである。実際T会からの課題を全てこなしていたら1週間全て埋まってしまうはずだ。

おかしいことに、彼ら東大出身者は、生徒は自主的に勉強しない、つまり勉強は嫌悪されるべき存在だ、と自ら証明しているのである。彼らは自発的に勉強してこなかったのだろうか？受験生性悪説が通用するのはせいぜい小学生の間である。

さていろいろと僕がおかしいと感じた点を列挙してきたが、これら全てに共通し、T会の根幹となっている理念がある。それは、「保護者」に徹底的にいい顔をする、ということだ。これは理にかなった、ある種開き直った考えである。生徒を引きつけるために無駄な努力をする必要はない。もう1ステップ上を見て、徹底的に親にいい顔をすることで、その子供をも取り込めるからだ。普通の親なら「我が子を東大に進学させたい」と考え、親はすなわち「授業料を払う」という一点において子供の生殺与奪を握っているので、親を味方にしてしまえば恐いものは無いのである（「誰のおかげで塾に行けると思ってるんだ」という言葉は、子供にとって親の絶対的優位を実感させられる言葉でもある）。親にいい顔をするために、T会は何でもする。ペットボトルを机の上に出したと言ってもは授業中に乱入してくる「カマキリ」の姿こそ、親の抗議（「あら、授業中に飲み物が飲めるような環境にいたらウチの子勉強に集中できないわ」）を恐れる彼らの心理を体現している。

だが、そうした一見効率が良く無駄がないように見えるシステムが生徒に及ぼす影響を彼らは考えているのだろうか？中学生のうちから勉強させられる癖（勉強する癖、では無い）を身につけさせられ、心理的に敏感な年齢にあって親からの管理を最も嫌う思春期を、あのような超母親的閉鎖管理システムの下で過ごさなくてはならない彼らの心理状態は、精神科医でなくとも容易に想像がつく。僕らが中3の頃、T会の1学年下のクラスで刃傷事件が起こった。詳細は僕の知るところではないが、複数の情報によると、G中学の生徒aがA中学の生徒bに定規を貸したがすぐに返してくれず、結果aは腹を立て持っていたナイフでbの腹部を刺した、という事件らしい（幸い被害者は大事には至らなかった）。T会の中で圧殺され鬱屈していたエネルギーが些細な事をきっかけに暴発した、といったら推測に過ぎるであろうか？

残念なことにT会は、一つだけそのシステムに欠点を残している。閉鎖性ゆえの、欠点である。「狭い空間に閉じこめられた思春期の男女」が取る行動は文化人類学者でなくとも容易に予想がつくだろう。「出会い系塾」と化したT会では、結局受験前の最後の最後まで、くっついたの離れたのといった噂話が飛び交っていた。僕は、T会が生徒を男子と女子に分離すれば完璧なのではないかと考えているのだが。

入試直前期になると、T会の中で「俺、家じゃ集中できないんだよな」という声をよく聞いた。「俺は親の干渉を受けたくない」という一種の意思表示である。では彼らはどこへ行って勉強するのか？図書館でも学校でもなく、T会に行くのである。何のことはない、母親の管理下から逃れ自由を得たと思っているが、結局ビッグマザーの管理下に置かれているだけなのだった。ここに「管理の記号」が完成する。子供は無意識のうちにマザーの管理下に置かれることを選択するようになり、「勉強させられる」癖を身につけ、そのまま東大に受かってゆく。「東大に受かるために勉強していた」彼らは、その目的を達成したと同時に勉強することを放棄するかもしれない。

このように見てきたとき、T会は親の工ゴを最大限に体现する塾であると言える。ありとあらゆる手段を使って親の保護欲をくすぐり、二人三脚で子供を「勉強させ」、「東大に受からせる」。だから当然工ゴの塊のような親たちには大歓迎される。T会に子供を入れておけば自動的に東大に受かってくれるのだから、文句のつけようがないではないか（しかも月謝は他塾より安めなのだ）。

だが、それは子（生徒）に対する裏切りであり、愚弄であり、何より失礼な行為だ。

自分の子供を信用し、信頼していたら、そのような塾には入会させないだろう。いくら自分の子供とはいえ、「金を払っているから言うことを聞け」式の言葉を持ち出したらそれは失礼というものだ。ましてやもう中高生なのだから。彼らを信じなさい。

このまま子育て論を展開する気力も人生経験も無いのでこのあたりでやめておくが、「うちの子鉄緑会に通わせてますの、おほほ」などと言う親がいたら、（ああ、この人は子供を信頼していないんだな、可哀想に）くらいに思っておきましょう。

※ しかし高3になったらT会に通わなければやっていけないことに注意。むしろ上に述べたようなことを知っていれば恐るるに足りない。僕は高3以前までにSEG・WISEを始め多くの塾に通ってきたため、T会の欺瞞を看破することができたまでである。受験産業という一つの市場が確立されている以上、彼らを責めることはできないだろう。入会するかどうかはひとえに親と本人の見識にかかっている。T会の効率性に着目した、類似の、あるいはさらに「進んだ」システムを持つ塾が他に出現する可能性は十分にあるので。

*

*

*

さて、T会に通い始め、「強制される勉強」に疑問を抱いた僕に浮かんだのが冒頭の問いである。何のために今勉強しているんだろうか。これはどう考えてみても「東大に入るため」であった。しかし、なぜ東大なんだろう。そもそも「東大に入るために勉強している」ということは、裏返せば「東大に入ったら勉強しない」ということだ。それはおかしい。何かが違う。じゃあ勉強って、何だ？

*

*

*

人間には3つの欲望がある。食欲、性欲、睡眠欲だ。だが僕が考えるに人間には4つ目の欲望が備わっていると思う。それは「知」を求める欲望である。大げさなことではない。「何かを知りたい」と思うこと——これはどんな人間にもある基本的な衝動だ。好奇心、と言い換えてもいい。そのために人類は、言葉を使用することで太古の昔から互いにコミュニケーションを取り、情報を交換し合った。やがて活版印刷の発明によって普及した書物という媒体が人間の「知」欲を飛躍的に拡大させ、マス・コミュニケーションの発達、さらにインターネットという地球規模の巨大情報集積体の登場により、人間の知欲は垂れ流し状態になっている。

F＝ベーコンは「知は力なり」と言った。この場合「知」は「経験に基づく知識」という意味で使われている。僕が言いたい「知」とは知識 knowledge のことだけではない。人間が頭を働かせて生み出した総体を「知」としてとらえたい。そして、この知を捉えようと努力する人間の営み、それを「勉強＝学び」と呼びたい。受験勉強も、勉強と名が付く

限りにおいてそうした「学び」の一部であろう。だから「受験勉強」という名に嫌悪感を示したり、できる限り触れたくないもの、最小の努力で済ませたいものとして否定的に捉える（これは一般に流布している価値観である）のではなく、「受験勉強も、勉強という知の営みの一環なんだ」と積極的、肯定的に捉える——これは受験における、いや勉強全般における1つの真理ではないかと思う。英語を勉強することは自分が国際社会に出て行く上でパスポートとなり得る。数学を勉強することは論理性の鍛錬である。現代文を学ぶことは他者の理解につながると同時に論理を読み解く能力を伸ばす。古文漢文によって日本や中国の古典世界に触れ、先人の生き方・世界観を学べる。世界史を学ぶことは歴史の連続性を自分なりに解釈することであり、通時的・大局的視点の獲得につながる。地理とは、地球上における自然と人間の営みを知りそれらを有機的に結びつけることである。センター試験で地学を選択しようと、現社を取ろうと、それらは全て、どんな形であれ、新たな知につながるのではないだろうか。そしてそのように受験勉強を通して獲得した知は、受験勉強の中だけで終わることはない。だから、勉強は、やらされるものでは有り得ないのだ。

だが同時に、知は無力である。万能どころか、世の中、論理で動いている部分などほんの一部に過ぎない。ちょうど、有理数と無理数を比べると無理数の方が遥かに多いというのと同じだ。無理が通れば道理が引っ込む。受験勉強に限って言えば、日常生活には全くと言っていいほど、役立たない（英語は役立つかも知れないが）。 $Y=x^3+5x^2$ を微分し、源氏物語を解釈し、10世紀の世界の様子を概観し、オーストラリアの貿易先の変化を知り、地球と太陽の距離が1億5000万キロだと知ったとしても、それは僕たちの生きている日常世界では無意味な事柄である。むしろ邪魔だと言えるかもしれない。即ち「無知は力なり」。おそらく知を得れば得るほど、人間は無力になってゆくのだろう。

* * *

ここまで考えたとき、折しも二次試験1週間ほど前であったが、本棚にあった「知の論理」（東京大学出版会）を開いてみた。詳細を述べるのは省くが、僕はそのとき初めて、「東大に行きたい」と思った。

* * *

続けよう。

しかし、大学受験に限って言えば、そこは論理のみで切り抜けていける極めて珍しい世界——つまり自らの知欲を最大限に発揮できる場所なのだ。

だから、受験勉強は、戦いやゲームなどではないのだ。もちろん、敵などいない。いるとすれば、それは自分自身だ。特定の誰かをライバル視してどうする？他人を蹴落として、どうする？模試の順位表は切り取って捨ててしまおう。他人が、自分が、何位だろうが関係ない。これは自分だけの問題だ。他人が何点取ろうが、自分より成績が上の奴が何人いようが、それは本質ではない。自分の「知」を、入学試験にぶつければ良いだけだ。いや、試験すら関係ない。入試など日常の一コマに吸収してしまおう。2月24日も、25日も、26日も、27日も、その翌日も、なんら特別視することは無い。全て、日常である。日

常とは即ち知の営みである。朝、目を覚まし、そういえば今日東大入試だっけ——と気付
き、やおら起き出して普段と変わることなく電車に乗って会場に向かう……間違いなくそ
いつは1桁台の順位で合格するだろう。

だが、僕はもう受験勉強はしない。なぜなら、受験という狭い枠を越え、新たな勉強を
するための許可証を手に入れたからだ。

*

*

*

僕が述べたことは、理想論に過ぎないのかも知れない。いくらきれい事を並べた所で、
現実に受験生は「合格」と「不合格」のどちらかに、明確に、これ以上はないというほど
明確に、区別される。0もしくは1。合格者は不合格者ではなく、不合格者は合格者では
有り得ない。その裁定を下すのは採点者とはいえ、実際に答案を作成するのは自分である。
その点、裁判官という他者に判定が任せられる裁判よりも、受験は冷酷だ。自らの頭に突
きつけた銃の引き金を引くのも自分、銃を下ろすのも自分である。

**現実には、受験は生きるか死ぬかの戦争であり、他人より1点でも多く
点数をかき集めなければならない点取りゲームでしかない。しかし、理想は
求め続けなくてはならない。テクニックだとか、ゲームだとか、戦いだとか、割り切
って考えるのはその後でいい。「割り切る」(=abstract)ことは同時に「捨象する」こと
であり、本当に大事な何かを気付かないうちに忘れ去ってしまうことでもある。だから、先
の理想論を根底に置いた上で、以上数十ページにわたって述べてきたことを参考にしなが
ら、受験勉強に取り組んでほしい。これは、受験生全員への、僕の心からの願いで
ある。**

結果は後からついてくる。君はどう勉強するか？

2004年3月31日

N.I.

d7u2t6bsob2lxg7z0ik3@gmail.com